

第3回 神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議

日時：令和4年4月7日（木）17時00分～18時30分
場所：オンライン会議

議事次第

1 開会

2 議題

- （1）第2回有識者会議の振り返り
 - （2）東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方
 - （3）東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項
 - （4）ポストコロナのまちづくりの視点（案）
- （別紙資料：ポストコロナのまちづくりの視点に係る参考事例集）

3 その他

4 閉会

【配布資料】

- ☐資料1：神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議設置要綱
- ☐資料2：第2回神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議議事要旨
- ☐資料3：第3回会議資料
- ☐資料4：第3回会議資料＜参考事例＞

神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議設置要綱

令和 3 年 12 月 2 日 制定 3 財財総第 410 号

(名称)

第 1 条 本会は、神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議（以下「有識者会議」という。）と称する。

(目的)

第 2 条 有識者会議は、都民の城（仮称）及び周辺都有地（別紙参照）について、地域特性や都市をめぐる環境の現状及び変化等を踏まえ、ポストコロナのまちづくりの大きな方向性について検討することを目的に設置する。

(検討事項)

第 3 条 有識者会議は、次に掲げる事項について検討する。

- 一 神宮前五丁目地区まちづくりの大きな方向性に関すること
- 二 その他上記に関連した必要な事項

（組織）

第4条 有識者会議は、別表に掲げる委員により構成する。

- 2 有識者会議には座長を置き、委員の互選によってこれを定める。
- 3 座長は、有識者会議を代表し、会務を総理する。
- 4 座長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。
- 5 委員又は前項の規定により会議に出席した委員以外の者に対し、謝礼金を支払うことができる。
- 6 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（有識者会議の公開）

第5条 有識者会議及び有識者会議の資料は原則公開とする。なお、議事要旨については、有識者会議の終了後に作成し、後日公開する。ただし、東京都情報公開条例第7条各号に規定する情報を取り扱うとき、または座長が公開を不適当と認めるときは、この限りではない。

（オンラインによる会議）

第6条 感染症のまん延防止の観点から開催場所への参集が困難と判断される場合や効率的な会議運営など、座長が必要と認める場合は、オンライン（映像と音声の送受信により相手の状態を相互に認識しながら通話を行うことができる方法をいう。）を活用した会議を開催することができる。

（守秘義務）

第7条 委員又は第4条第4項の規定により会議に出席した委員以外の者は、会議に関連して知りえた情報を他にもらしてはならない。

（事務局）

第 8 条 有識者会議の事務局は、財務局財産運用部総合調整課及び都市整備局都市づくり政策部土地利用計画課とする。

（その他）

第 9 条 この要綱に定めるもののほか、有識者会議の運営に関して必要な事項は、座長が別に定める。

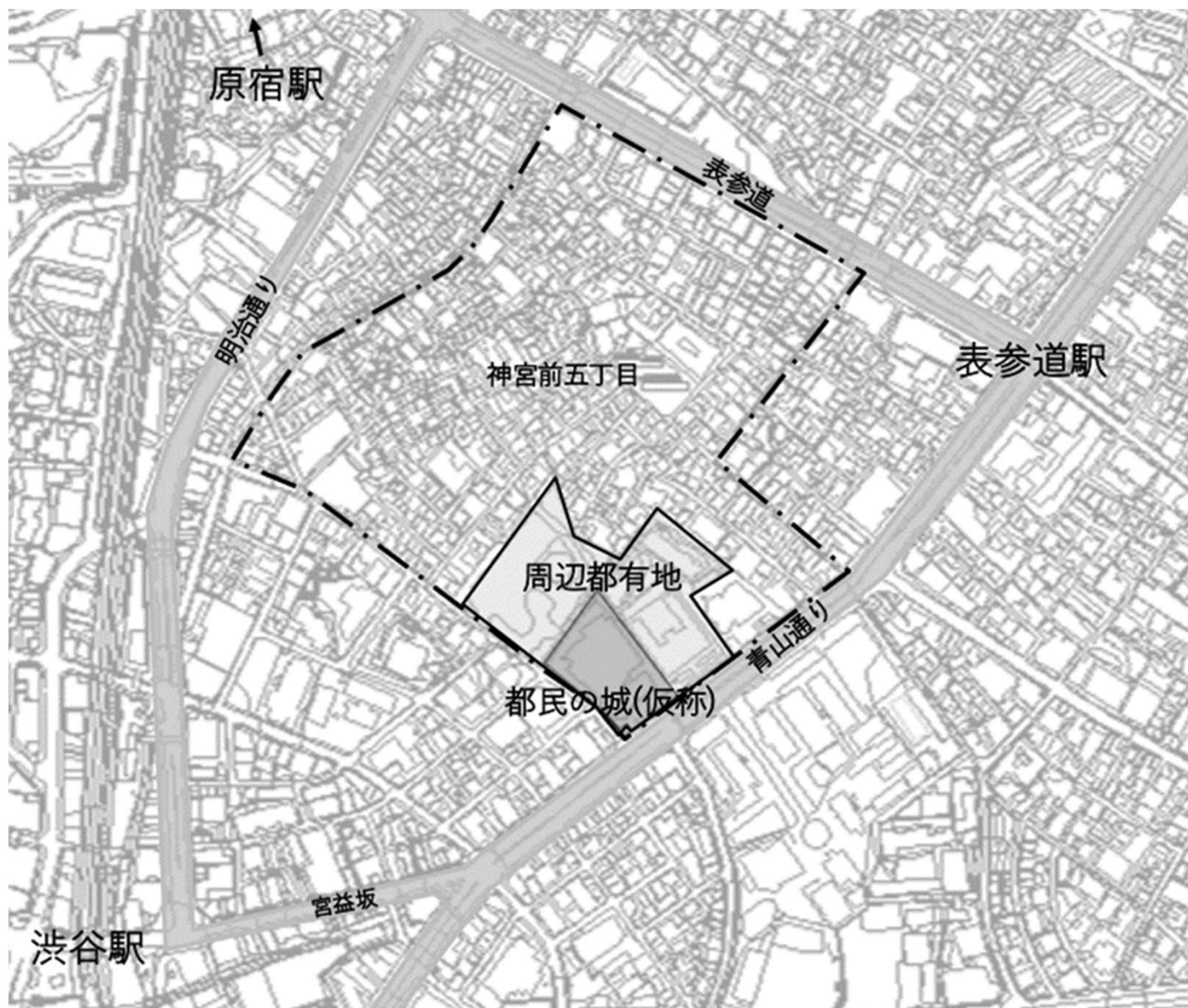
附則

この要綱は、令和 3 年12月 2 日から施行する。

【委員】

朝日	ちさと	東京都立大学教授
伊藤	香織	東京理科大学教授
越塚	登	東京大学大学院教授
小林	真理	東京大学大学院教授
中井	検裕	東京工業大学大学院教授

（五十音順、敬称略）



※この地図は、国土地理院長の承認(平24関公第269号)を得て作成した東京都地形図
(S = 1 : 2, 5 0 0)を使用(3都市基交第736号)して作成したものである。無断複製を禁ずる。

「神宮前五丁目地区まちづくりに向けた有識者会議」(第2回)

議事要旨

- 日 時:＜非公開＞2022 年 1 月 24 日(月) 17 時 30 分～17 時 50 分
＜公 開＞ 18 時 00 分～19 時 00 分
 - 場 所:東京都庁 第二本庁舎 10 階 207・208 会議室及びオンライン(Teams)
 - 出席者:中井座長、朝日委員、伊藤委員、越塚委員、小林委員 (下線は、オンライン出席者)
- ※傍聴等は、オンライン(事前予約)により実施
- 議事概要

☐ 資料についての質問

【小林委員】

- 都民の城(仮称)の計画は旧こどもの城の改修という事なので、深い検討はされていないと思うが、仮に更地にした場合にどの程度費用がかかるのか分ければ教えてほしい。
- 国連大学は丹下氏の作品だったと思うが、こどもの城の作品性についてお伺いしたい。

⇒【事務局】

- 旧こどもの城は地下4階地上 13 階の建物であり、購入当時の不動産鑑定書によると解体には約 30～40 億円程度の費用がかかるとの記載があった。
- こどもの城については、著名な建築家の作品ではない。

【伊藤委員】

- 都民の城(仮称)の酸素・医療提供ステーションとして活用は当分続くのか。活用が続く限り、改修はできないという理解で良いか。
- SDGs などの観点において、リノベーションという考え方もあると思う一方で、建替えた方がライフサイクル全体で考えたときのコスト(以下、LCC という。)が低くなるという事もあり得る。もし新しく建替えるという選択肢も可能性としてありえるならば、改修計画通りに改修事業を進めた場合とそうでない場合で、一体的活用の進めやすさや、ライフサイクル CO₂やライフサイクルコスト、ライフサイクルエネルギー、建築物の文化的価値など多面的に条件を比較してみるとよいのではないか。

⇒【事務局】

- 酸素・医療提供ステーションとして活用しているうちは、改修事業を進めるのは難しい。
- 条件の比較ができる資料については作成して、次回以降ご提示する。

【朝日委員】

- 多面的な比較において、工事費や LCC に加えて時間軸の観点もご提案いただいたが、供用が遅れることでの機会費用・機会損失についても整理していただけるとよいと思う。また、準備経費

や準備の間にかかるコストなども、全体の費用対効果を図るうえで必要だと思う。

⇒【中井座長】

- 都民の城(仮称)改修基本設計時の想定スケジュールについて、基本設計完了時をスタート地点とすると既に実施設計に入っている段階となる。酸素・医療提供ステーションでの活用の影響でスケジュールが予定通りに進んでいないという事だと思うが、現在のタイムラインに修正いただいて、このまま改修計画がずれ込んだ場合のスケジュール感について把握したい。4敷地一体活用が最短で令和 11 年という話だが、これが修正後のタイムラインでどのタイミングにあたるのかが分かるようにしていただき、そのうえで条件の比較整理の資料を作成頂きたい。

⇒【事務局】

- 伊藤委員の質問と合わせてご提示する。

【中井座長】

- ステップアップ・プロジェクトは、渋谷以外にも存在するのか。

⇒【事務局】

- 渋谷と竹芝の2地区で実施しており、竹芝は一昨年に完了した。

⇒【中井座長】

- 特別に2地区を取り上げている背景や意図を教えてください。

⇒【事務局】

- 未利用の都有地を活用するという考え方で様々な都有地活用のプロジェクトが立ち上がっている。特にステップアップ・プロジェクトは、複数の都有地を開発する事で面的な更新の誘導を図るプロジェクトとして進めている。

⇒【中井座長】

- 複数の都有地ということで、特にこの地区においては、都有地としては3か所だが、そこを起点としてガイドラインの範囲(約 50ha)への広域的な展開を狙っている計画だという理解でよいのか。

⇒【事務局】

- その通りである。

【小林委員】

- ステップアップ・プロジェクト第2弾の児童会館跡地の事業は完了しているのか。また、児童会館跡地の創造文化教育については、こどもの城の文脈や都民の城(仮称)の改修計画の内容に近い整備内容だと感じたが、どのように捉えればよいのか。

⇒【事務局】

- 児童会館跡地については現在、事業者提案を受け付けている段階であり、年度内に事業予定者を決定する予定である。
- こどもの城は国立の施設だったこともあり、都立の児童会館とは上手く役割分担できていた。また、児童会館跡地は公募による民設民営であり、都民の城(仮称)は公設予定であることから、

棲み分けができていると考えている。

⇒【中井座長】

- まだ事業者提案も明らかになっていないという段階であるという理解でよいか。
- こどもの城の機能を見童会館跡地で引き継ぐという意図はないという理解でよいか。

⇒【事務局】

- その通りである。

□ 意見交換

【越塚委員】

- 全体としては歴史やこれまでの経緯・想いが大事だと感じる一方で、それらが物理的に提供できない場合に、デジタル技術を使って補ったり、または仮想空間で実現することもできるのではと思っている。
- デジタルツインや、最近はメタバースが話題になっているが、都市づくりにおいてリアルファーストではなくバーチャルファーストという考え方、デジタル空間でまちづくりを進めてバーチャル上で都民のみなさんに活用してもらって意見を取り入れ、よさそうだと分かったらリアルに反映させるという変わったやり方もあり得るのではと考えている。
- デジタル技術は次々と最新のものに置き換わっていくものだが、この場所が完成するときにはさらに何世代も更新されていることが見込まれることから、リプレイス可能な空間作りが重要だと考える。また、デジタルは手法論に近い領域なのでディティールの話になってしまうが、例えばロボットが通れるような設えやドローンポートの整備などもあるが、通信設備を 5G、6G、7G、と世代が代われればそれを入れ替えできるようにするなど、特定の技術に固定されず、その時代の最先端のデジタルサービスを受け入れられる柔軟なハードウェアになっているかが大切だと思われる。

【朝日委員】

- ステップアップ・ガイドラインは計画時点で渋谷が持っていたポテンシャルを捉えて作られていると思うが、今はポストコロナなどにより状況が変わっている。新たに生まれた様々な視点を見ると、予測できない動きが多くあり、それに対応できる計画の在り方が問われていると思う。平常時と非常時の空間の可変性など計画論的な論点がこれまでも出てきたが、それに加えて考え方や進め方の工夫も必要になってくると感じた。たとえばフューチャーデザインという考え方では、将来の目線に立って考えると、今考えている事と異なった解が出てくるといった転換が起きる。

【伊藤委員】

- 国交省の方針の中では、国際競争力やウォーカブルなまちづくりといった言葉が書かれているように、身近で暮らしやすいといった観点の一方で、世界の中で東京がどう存在感を発揮していくか、それに対して都心に位置する渋谷や青山がどう在るべきなのか、考えていく必要があると思う。

- ステップアップ・ガイドラインにおいても、まちの魅力を高めるという観点で3つの誘導目標を掲げており、実際にはガイドラインに記載のある事項を踏まえて計画していくことになると思うが、東京の中での青山の位置付けについても同時に考えていく必要があると思う。前回も発言したが、文化という観点はヒントになるのではないか。

【小林委員】

- 未来や将来に備えて、事前に考える様々な機能や設備を用意しておくという考え方も分かるが、劇場や文化施設に特に関わってきた身としては、最先端はすぐに上書きされるということに留意が必要だと感じている。青山劇場もそうだと推察されるが、例えば東京芸術劇場では整備当時は将来にわたって新しい舞台芸術を発揮できるような場所として、高度な舞台装置・設備を有していたが、その機能が使われたのは開館した時の1回だけであり、また、高度であるがゆえに改修時に非常に苦労したと聞いている。欧米型の劇場で常駐の劇団などがいるのであれば、高度な設備も使われ続けるが、そうでない場合は使いこなせないという事だと思う。誰が使うのが重要であり、今回の場合は、都民というくりだけではなく、都民のどのような人に使ってもらふ施設なのか、そのためにどのような機能を用意すべきなのか、きちんと捉える必要があると思っている。可変性・柔軟性のある空間の実現が可能かは分からないが、建物としては長く使っていけることを前提に、将来にわたって変化させながら使っていけるということが重要だと思う。

【越塚委員】

- 私の先ほどの発言は、新しいものを入れることが重要という趣旨ではなく、柔軟性を持たせる事が重要だという、みなさんのご意見と同じ方向性の考えである。新しいものは陳腐化するというのはよくある話であり、特に技術は次々に更新されていくものであるので、何十年先にも入れ替えられるようにしておくといった、変化に対応できる柔軟性が重要である。

【中井座長】

- 本日いただいた意見は以下の通り。
 - 将来に向けての可変性や柔軟性を考慮した計画にしておくべき、という点が共通した意見であった。従来この手の跡地利用計画を作る場合には、機能や空間を固定的に詰めていくことになるが、ポストコロナにおける今回の検討においては、大きなフレームやインフラはしっかりと組んでおくが、将来の不確実性を受け止められるような設えや仕組みをビルトインしておかないと、すぐに陳腐化してしまうということだと思う。
 - バーチャルファーストで進める可能性についての刺激的なご意見もいただいた。一方で、東京の中での青山の位置付けや歴史・経緯などについても重要とのご意見もいただいた。どちらも重要な論点ではあるものの、即地性・場所性はバーチャルの中に取り込みづらいものであるため、これらをどのように両立していくのかは今後の課題である。開発内容だけでなく、まちづくりの進め方という面でも、両面の考え方が必要になってくると思うので、今

後も議論を深めていきたい。

- 本日の非公開部分になるが、コスモス青山・国連大学などそれぞれの敷地で現在も利用している方が多くいらっしゃるため、具体の機能や空間形成を検討する段階において、関係者の意向も踏まえて整理を進めていく必要がある。
- 都民の城(仮称)については、酸素・医療提供ステーションとしての活用期間が定かでない中で、ポストコロナの観点や都市計画上の課題、タイムラインも含めて、改修計画の代替も評価検討すべきであり、事務局の次回以降の宿題とする。
- 具体的なユーザーを考えていく必要があるというご意見もいただいた。都民といっても、都民のどういう人なのかということまで、内容を詰めていく段階では十分議論をしていく必要があるだろう。

以上

神宮前五丁目地区 まちづくりに向けた有識者会議

第3回 会議資料

令和4（2022）年4月7日（木）

東京都

神宮前五丁目地区 まちづくりに向けた有識者会議

第3回 会議資料【目次】

1. 第2回有識者会議の振り返り	1
2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方	2
3. 東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項	16
4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）	17

（別紙資料：ポストコロナのまちづくりの視点に係る参考事例集）

有識者会議検討スケジュール

第1回	令和3年12月27日開催
第2回	令和4年1月24日開催
第3回	令和4年4月7日開催
第4回	令和4年4月頃開催予定
第5回	令和4年5月頃開催予定

現況整理

ポストコロナのまちづくりについて

まちづくりの大きな方向性について

都民の城（仮称）の改修計画とまちづくりの大きな方向性（案）について

まちづくりの大きな方向性（提言取りまとめ）

1. 第2回有識者会議の振り返り

■ 第2回有識者会議（前回）議事のポイント

- 将来の不確実性を受け止められるような設えや仕組みが重要であり、将来に向けては、可変性や柔軟性を考慮した計画とすべき
- デジタルやバーチャルなどが持つ可能性と、青山という「土地」が有する即地性や場所性の両立に向けて今後も議論を深めていく
- 都民の城（仮称）の現状を踏まえ、ポストコロナの観点や都市計画上の課題、タイムラインも含めて、改修計画の代替も評価検討すべき
- コスモス青山・国連大学の土地利用については、具体の機能や空間形成を検討する段階で、関係者等の意向も踏まえ整理を進めるべき
- 具体のユーザーを考えていく必要がある。内容を詰めていく段階では十分議論するべき

■ 今後の議題

【まちづくりに係る議論の深化】（今回提示）

- 上位計画を整理し、東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項を整理
- これまでのまちづくりに係る御意見を踏まえ、ポストコロナのまちづくりの視点(案)を作成し、参考事例を交えつつ議論

【整備パターンの評価検討】（次回資料提示予定）

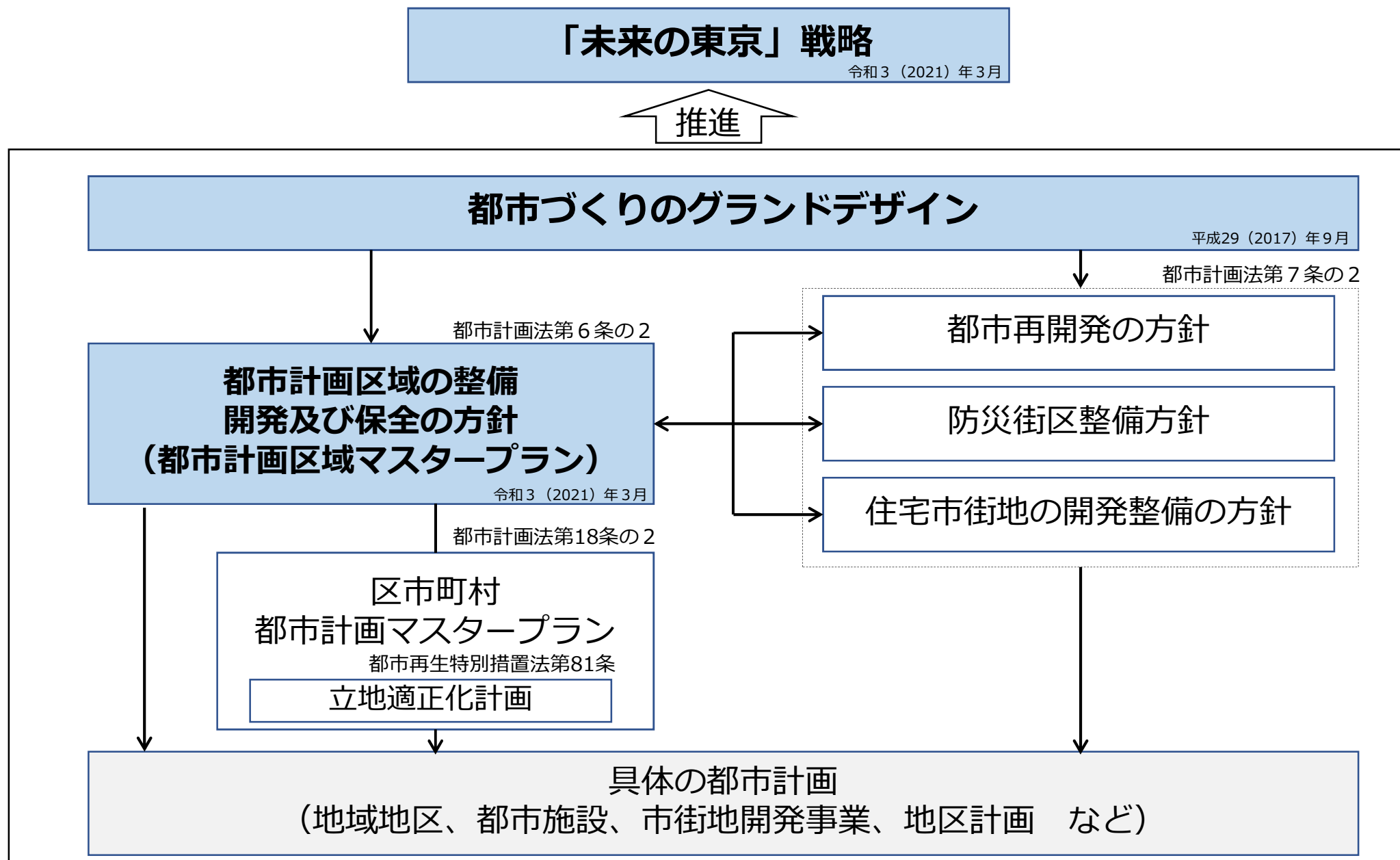
- 都民の城（仮称）の現状を踏まえ、改修事業の有無も含めた整備パターンの評価について議論

【具体の土地利用について】

- 本会議の提言を踏まえ、4 敷地一体活用に向けた実務的なまちづくりについて、行政も加わって検討を進めていく中で議論

2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方

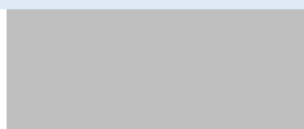
【都市計画区域マスタープラン体系図】



【「未来の東京」戦略のこれまでの経緯】

■ 「未来の東京」戦略ビジョン（令和元年12月）

- 2040年代に目指す東京の姿「ビジョン」と、その実現のために2030年に向けて取り組むべき「戦略」を提示



■ 「未来の東京」戦略（令和3年3月）

- 新型コロナで浮き彫りとなった課題を踏まえ、構造改革を梃子として、戦略ビジョンをバージョンアップ



■ 「未来の東京」戦略 version up 2022（令和4年2月）

- 東京2020大会と、新型コロナとの闘いの中で生じた様々な変化変革を踏まえ、未来を切り拓く取組を更に加速

「未来の東京」戦略を実行する

- 都は、令和3年3月「『未来の東京』戦略」を策定し、その実行を通じて、成長と成熟が両立した持続可能な都市の実現を目指している
- 東京2020大会が終わり、その実現に向けた歩みを本格的に進める新しいステージに立つ。大会の成果や新型コロナとの厳しい闘い等、時代のニーズや状況変化に対応する観点から政策をバージョンアップし、未来を切り拓く取組を加速していく

バージョンアップ
の視点①

東京2020大会の成果を都市の発展へつなげる

安全・安心な大会を実現

スポーツのすばらしさを共有

共生社会を実感

ボランティアが人々を笑顔に

サステナブルな社会への道筋
未来を感じたテクノロジー

「まち」・「暮らし」が変化

東京・日本の魅力を発信
復興の姿と感謝を届けた



「未来の東京」戦略を実行する

バージョンアップ
の視点②

時代のニーズや状況変化に迅速に対応

新型コロナウイルスの長期化の影響

新たな課題が顕在化・深刻化するなど、
人々の暮らしや働き方に大きな影響を与えている

世界の都市間競争の激化

ポスト・コロナを見据え、グリーンとデジタルを成長分野に、
世界の都市間競争がますます激化

子供の目線からの政策展開の必要性

東京都こども基本条例を踏まえ、いかなる状況下においても、
全ての子供が健やかに成長できる環境整備が急務

東京2020大会の成果と状況変化を踏まえ、政策をバージョンアップ

「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）

<戦略を展開するスタンス>

「サステナブル・リカバリー（持続可能な回復）」の実現

課題の根源まで踏み込んだ「構造改革」を強力に推進

<4つの基本戦略>

- ①バックキャストの視点で将来を展望する
- ②民間企業等、多様な主体と協働して政策を推し進める
- ③デジタルトランスフォーメーション（DX）でスマート東京を実現
- ④時代や状況の変化に弾力的に対応「アジャイル」

■ 目指す2040年代の東京の姿「ビジョン」

■ 2030年に向けた「戦略」

■ 戦略実行のための「推進プロジェクト」

- 戦略0 感染症に打ち克つ戦略
- 戦略1 子供の笑顔のための戦略
- 戦略2 子供の「伸びる・育つ」応援戦略
- 戦略3 女性の活躍推進戦略
- 戦略4 長寿（Chōju）社会実現戦略
- 戦略5 誰もが輝く働き方実現戦略
- 戦略6 ダイバーシティ・共生社会戦略
- 戦略7 「住まい」と「地域」を大切にする戦略
- 戦略8 安全・安心なまちづくり戦略
- 戦略9 都市の機能をさらに高める戦略
- 戦略10 スマート東京・TOKYO Data Highway戦略

- 戦略11 スタートアップ都市・東京戦略
- 戦略12 稼ぐ東京・イノベーション戦略
- 戦略13 水と緑溢れる東京戦略
- 戦略14 ゼロエミッション東京戦略
- 戦略15 文化・エンターテインメント都市戦略
- 戦略16 スポーツフィールド東京戦略
- 戦略17 多摩・島しょ振興戦略
- 戦略18 オールジャパン連携戦略
- 戦略19 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略
- 戦略20 都政の構造改革戦略

「3か年のアクションプラン」（2021年度～2023年度）

「成長」と「成熟」が両立した未来の東京

セーフシティ

ダイバーシティ

スマートシティ

政策をバージョンアップする6つの切り口

① 安全安心

都民の命と生活を守る基盤「危機管理」

■ 新たな調節池整備
に着手



■ 島しょ地域など
無電柱化を加速



■ 東京 i CDCの機能を一層強化し
感染症に強い都市へ



■ 東京の危機克服・都市強靱化
10か年プロジェクト

■ DX等を活用し、自然災害への備えを強化

③ グリーン& デジタル

自然と共生した持続可能な都市

■ 「2030年カーボンハーフ」に向け、建築物の
ゼロエミ化、自動車の脱炭素化等を強力に推進

■ ウォーカブルな「人中心」
のまちづくりを推進

■ 「スマート東京」先行実施エリアの
取組強化・横展開



■ 緑を「守る」「増やす」取組を多面的に展開
■ 外濠浄化の推進により「水の都」を実現



⑤ チルドレン ファースト

子供の目線からの政策展開

■ 子供政策を総合的に
推進する体制を構築

■ 官民一体となった
「こどもスマイルムーブメント」
を戦略的に展開

■ 子供の参加・対話を通じて
政策の質を向上

■ DXや社会の力を一層活用し、
新たな「東京型教育モデル」を強化

■ 誰一人取り残さない視点から
子供へのサポートを強化



② 共生社会

バリアフリー「段差のない社会」

■ あらゆる施策の多様性と包摂性を高め
共生社会を実現



■ 都内全域で
「段差のない社会」を創出

■ 若者・ひとり親家庭など、
困難を抱える方へのサポート

■ 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）解消など、女性の活躍を加速

■ デジタル等を活用した高齢者のQOL向上を一層推進



■ 成長分野への就業支援、長期失業者への集中的なフォローアップ

④ グローバル

世界から選ばれる金融・経済・文化都市

■ 世界最先端を実現する
東京ベイ e S Gプロジェクトを推進

■ 東京が誇る「観光」を再興し、
「食」の魅力を高める多様な
振興策を展開



世界発信



■ 国際金融都市に向けた歩みを進める ■ 文化・エンターテインメントがあふれ
「楽しさ」を生み続ける都市へと進化

⑥ 都政の構造改革

シン・トセイの加速

■ 5つのスタンスで改革を更に実践

- ユーザーとの対話を徹底する
- QOSを徹底して数値化し、デジタルで爆上げする
- 働く環境を変えることで、人を、仕事を、組織を変える
- 制度や仕組みなどの構造的な課題に切り込む
- 変革をスピードアップし、サービスをいち早く実現する



シン・トセイ 2

■ コア・プロジェクトを加速しデジタルガバメント・都庁の基盤を構築

■ 各局リーディング・プロジェクトを拡充し、都政のQOSを飛躍的に向上

2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方 【都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）】

■都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）

- ・ 2040年代の目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を提示

■都市づくりの目標

「活力とゆとりのある高度成熟都市」

～東京の未来を創ろう～

- 新たな価値が生み続ける舞台として世界中の人々から選択されるとともに、個々人が、様々な地域で住まい方、働き方、憩い方を選択できる都市を目指す
- 環境への配慮（Environment）、社会への貢献（Social）、都市のマネジメント（Governance）、いわゆる「ESG」の概念も取り込み、最先端技術も活用しながらゼロエミッション東京を目指す
- みどりを守り、まちを守り、人を守る。あわせて、東京ならではの価値を高め、持続可能な都市・東京を実現

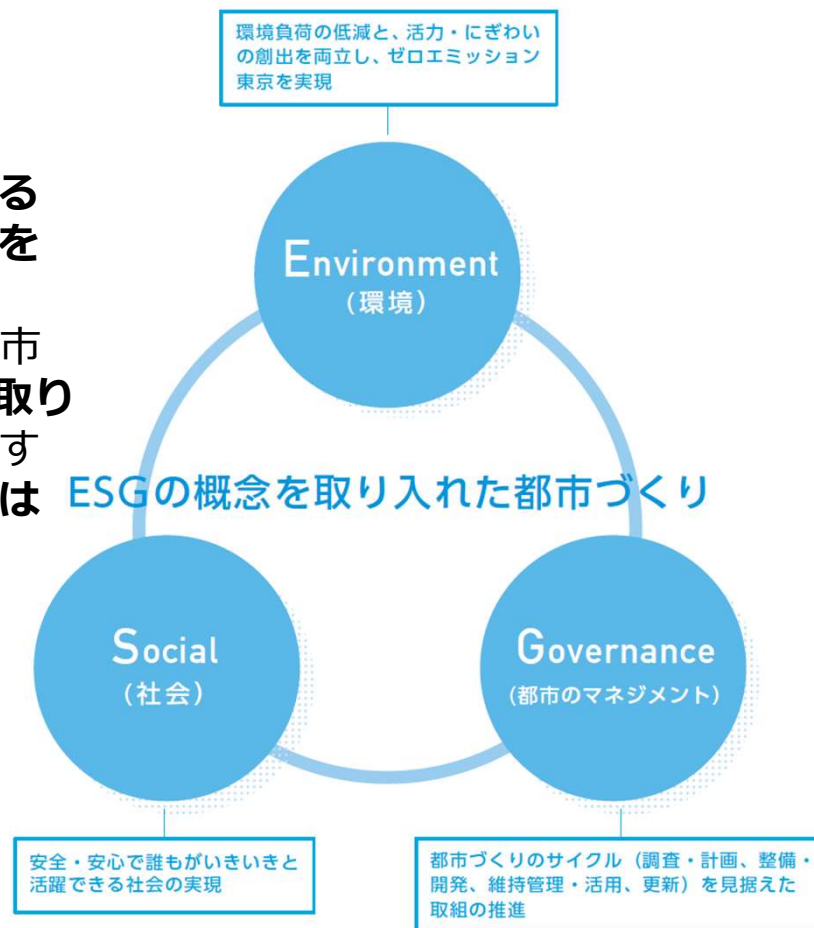
■東京が果たすべき役割

（世界における役割）

- 包容力を持ち、多様な人々・文化の交流を育む
- 都市課題の先駆的な解決モデルを構築・発信する
- 伝統と先進を融合させ、新たな価値を創出する

（日本における役割）

- 日本の首都として経済活動の推進力を発揮する
- 様々な地域と連携し、一層魅力的な日本を創造・発信する

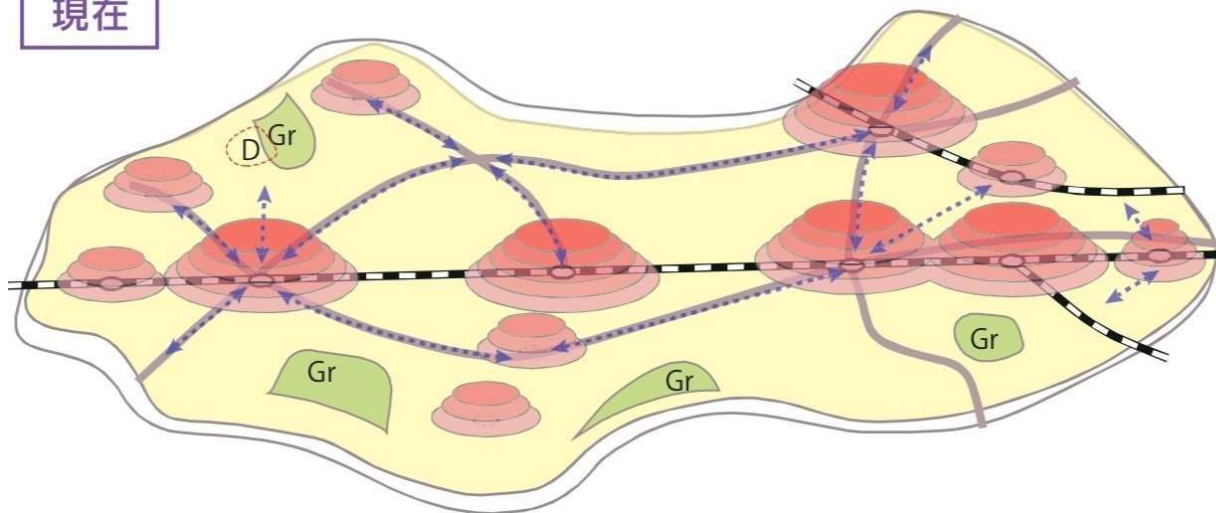


2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方 【都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）】

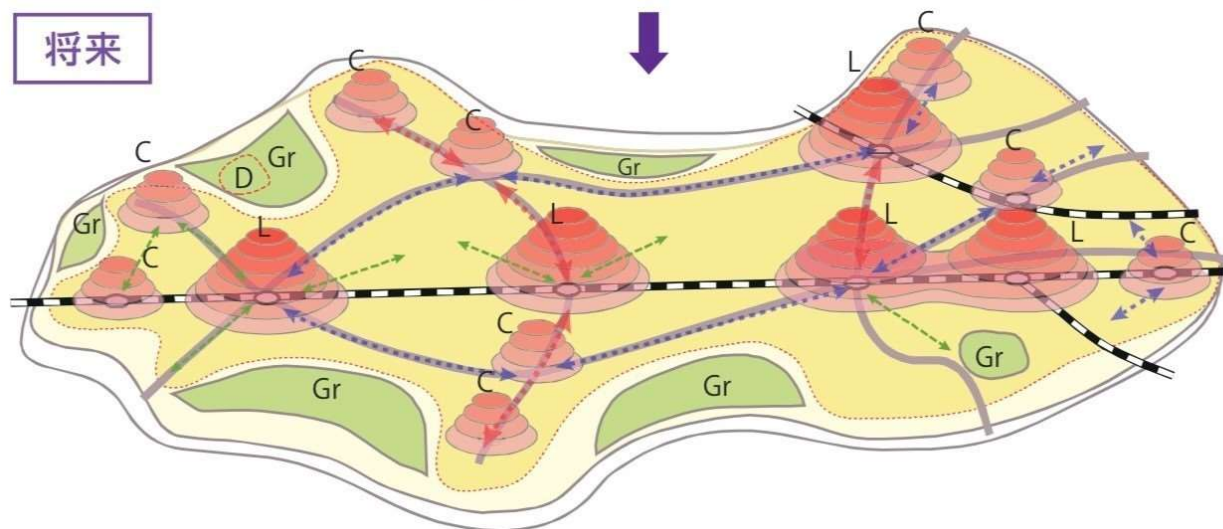
■ 地域的なレベルの都市構造 〈集約型の地域構造のイメージ〉



現在



将来

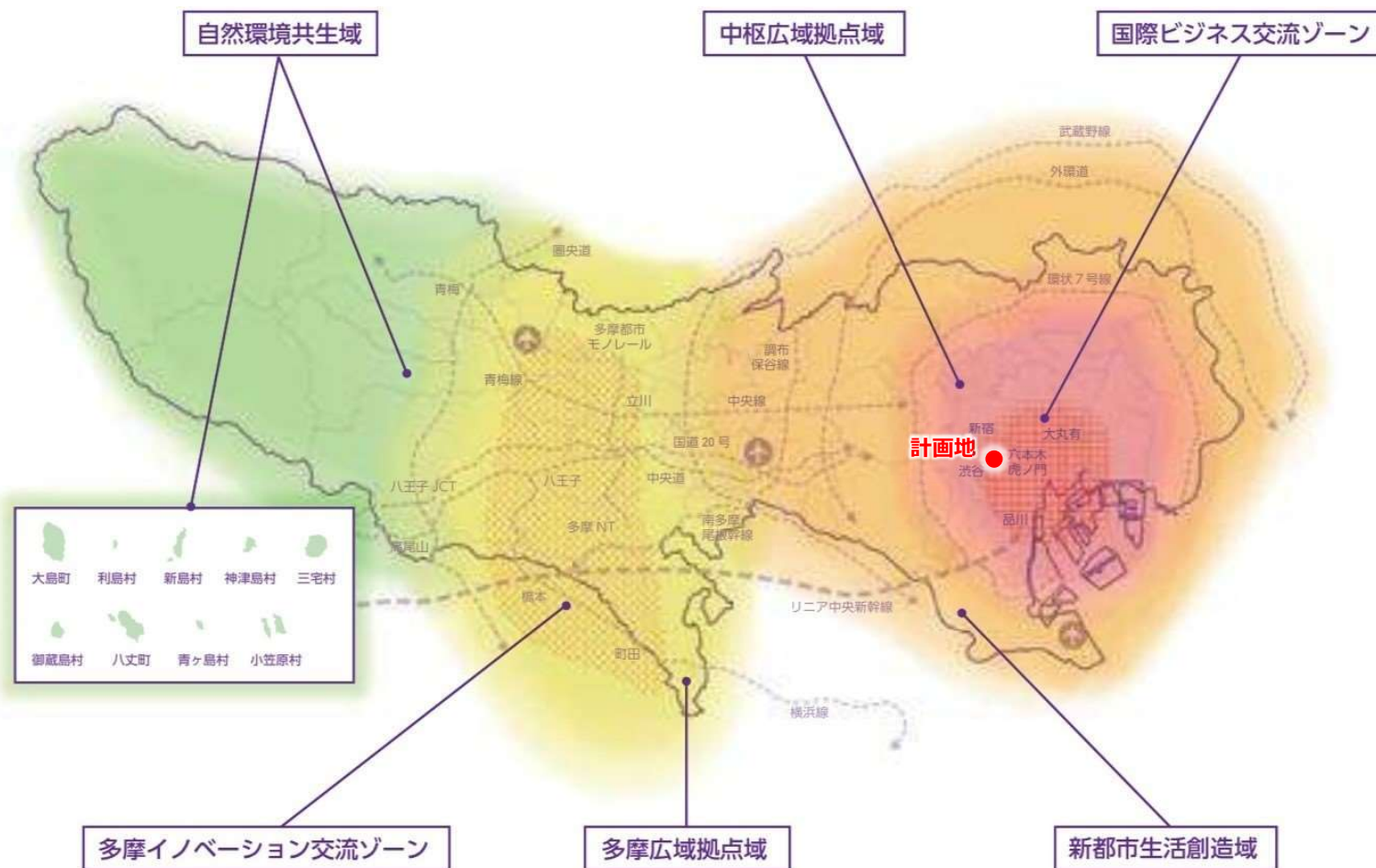


2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方 【都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）】

■新たな地域区分

＜4つの区域区分と2つのゾーン＞

- 計画地は「国際交流ビジネスゾーン」に位置（中枢広域拠点域内）



※ 隣り合う地域区分の境界域は、相互の地域特性が緩やかに変化・融合しながら連続性を持っています。

※ ゾーンの範囲は、高度な都市機能の集積や競争力のある研究開発機能の集積など、既存のストックを効果的に活用するとともに、社会経済情勢の変化等に対応しながら変容し得るものです。

2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方【都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）】

■都市づくりの戦略と具体的な取組

- 分野横断的な視点から7つの都市づくりの戦略と、30の政策方針を設定

戦略02

人・モノ・情報の自由自在な交流を実現

- 政策方針-4 国内外の人・モノの活発な交流を支える空港機能を強化する
- 政策方針-5 人・モノがスムーズに移動できるように道路から渋滞をなくす
- 政策方針-6 道路空間を再編（リメイク）し、ゆとりやにぎわいを生み出す
- 政策方針-7 満員電車をなくし、あらゆる人が快適に移動できるようにする
- 政策方針-8 鉄道ストックを基軸に誰もが移動しやすいまちをつくる
- 政策方針-9 高度に連携した効率的な物流ネットワークを形成する
- 政策方針-10 最先端技術を活用した情報都市空間を創出する

戦略01

持続的な成長を生み、活力にあふれる拠点を形成

- 政策方針-1 世界をリードする国際ビジネス交流都市を持続させる
- 政策方針-2 多摩にイノベーションを創出できる拠点を創出する
- 政策方針-3 際立った個性が魅力を発揮する多様な地域をつくる

戦略03

災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築

- 政策方針-11 様々な被害を想定し、災害に強い都市をつくる
- 政策方針-12 電柱のない安全で美しい都市をつくる
- 政策方針-13 災害時にも都市活動と都民の生活を継続し速やかな復興につなげる
- 政策方針-14 都市インフラを将来も健全に使い続ける
- 政策方針-15 都市全体でエネルギー負荷を減らす
- 政策方針-16 持続可能な循環型社会を実現する

戦略01

戦略02

戦略03

戦略04

2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方【都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）】

戦略04

あらゆる人々の暮らしの場の提供

政策方針-17 多様なライフスタイルに応じた暮らしの場を提供する

政策方針-18 高齢者や障害者が生きがいを持ち、子供たちが健やかに成長できる環境を整える

政策方針-19 良質な住宅ストックを長く大事に使う

政策方針-20 多摩ニュータウンを豊かな暮らしと活力に満ちたまちに再生する

戦略06

四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築

政策方針-24 あらゆる場所で緑を感じられる都市をつくる

政策方針-25 産業の一翼を担い活力を生み出す都市農業を育成する

政策方針-26 水辺を楽しめる都市空間を創出する

戦略04



戦略05



戦略06



戦略07



戦略05

利便性の高い生活の実現と多様なコミュニティの創出

政策方針-21 メリハリのある市街地を形成する

政策方針-22 新たなにぎわいを生み、多様な暮らし方を支える

政策方針-23 コミュニティを生む都市の多様なスペースをつくる

戦略07

芸術・文化・スポーツによる新たな魅力を創出

政策方針-27 都市の歴史に支えられた伝統・文化が新たな魅力を生み出す

政策方針-28 選ばれ続ける観光都市をつくる

政策方針-29 スポーツが暮らしの中に^と融けこんだ都市をつくる

政策方針-30 東京2020大会の競技施設を様々な角度から生かす

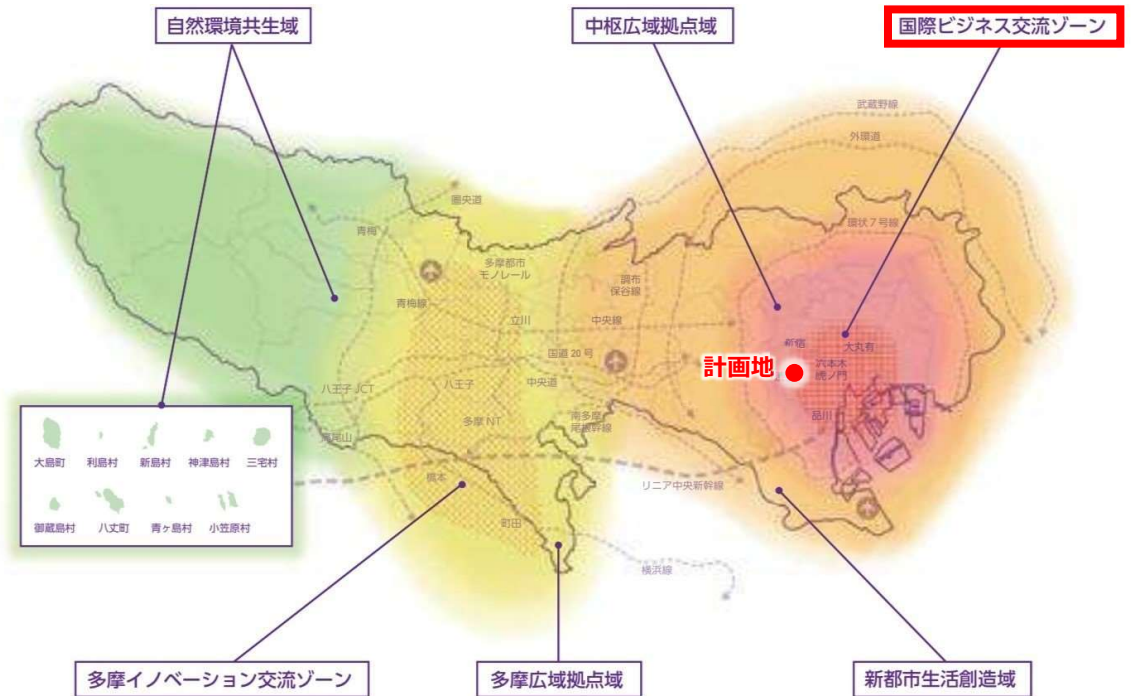
2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方 【都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和3年3月）】

■都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和3年3月）

- ・ 人口減少・少子高齢社会の到来などの社会経済情勢の変化などを踏まえ改定

■広域的な都市構造

- ・ 「都市づくりのグランドデザイン」と同様に、計画地は「国際交流ビジネスゾーン」に位置（中枢広域拠点域内）



～国際交流ビジネスゾーンの将来像～

- 「中枢広域拠点域」のうち、特に、国際金融やライフサイエンスといった世界中から人材、資本、情報が集まるグローバルビジネスの業務統括拠点やアジアのヘッドクォーターなど、**国際的な中枢業務機能が高度に集積した中核的な拠点が複数形成**され、アジアにおけるビジネス・交流の拠点としての地位を確立している。
- 加えて、高密な道路・交通ネットワークを生かし、国際的なビジネス・交流機能の強化と、その持続的な更新が図られている。
- これらのグローバルなビジネス展開を支える外国人向けの住宅、サービスアパートメント、医療・教育機関など、国際的に高い水準を持つみどり豊かな都市環境が整備され、世界中から多様な人材とその家族などが集まっている。

～渋谷の将来像～

- 駅周辺の建築物の更新が進み、**商業・娯楽施設、コンテンツ系産業、文化・交流機能等が高度に集積し、自立分散型エネルギーが確保された中核的な拠点を形成し、ファッションやエンターテインメントなどの先進的な文化を国内外に発信**
- 駅改良や駅前広場の整備やユニバーサルデザインのまちづくりが進むことにより、快適な歩行者空間の充実が進み、地区ごとに個性のある多様な商業・文化施設の集積を生かし、回遊性が高く、歩いて楽しい地域を形成
- 都市開発諸制度や都市再生特別地区などの活用により、交通結節機能の強化と合わせ、多様な機能が集積した中核的な拠点の形成を推進するとともに、駅周辺では、高い商業集積を生かして、老朽化し機能更新が求められている市街地を、地区計画や街区再編まちづくり制度の活用などにより、共同化や個別建替えを促進することで、にぎわいの維持・増進や防災性を向上
- 都市再生ステップアップ・プロジェクトにより都有地の土地利用転換が図られ、世界に向けた生活文化やファッション産業などの発信拠点を形成するとともに、歩いて楽しいまちを形成
- 再生された渋谷川の親水空間を軸に緑の遊歩道が整備されるなど、**水と緑のネットワークを形成**

～原宿・明治神宮前・表参道・青山一丁目の将来像～

- 地下鉄駅周辺の市街地の更新を図り、ファッションやコンテンツ等の企業集積を図るとともに、表参道、青山通り、キャットストリート（旧渋谷川遊歩道）などの街並みや個性的な商業集積などを生かし、**服飾雑貨等の生活文化の発信や交流を担う活力とにぎわいの拠点を形成**
- 南青山では、地域特性に応じた住環境と業務、商業などの都市活動の均衡が取れた魅力的な複合市街地の形成に合わせて公園機能を確保し、青山霊園などと一体となった地域の防災性の向上やみどり豊かで快適な都市空間を創出
- 市街地の更新の機会を捉え、土地の高度利用を図りながら、**みどり豊かで職・住・遊が融合したまちを形成**

2. 東京都の上位計画におけるまちづくりの考え方 【渋谷地区ステップアップ・ガイドライン（平成23年2月）】

■渋谷地区ステップアップ・ガイドライン（平成23年3月）

- ・ まちの魅力と活力を高める取組として、その実現に向けた都有地の誘導目標を定める。

＜都有地活用を通じたまちづくりの誘導目標＞

渋谷・青山・原宿を結ぶ人の流れを創出し、生活文化やファッション産業等の発信拠点を形成

誘導目標①：創造性を刺激する空間を形成

ファッション・デザイン等産業、クリエイターの育成・交流・発信機能の誘導 等

▼育成・交流・発信機能のイメージ写真



誘導目標②：多様な都心居住を推進

クリエイター等が魅力に感じる居住空間や生活を支える商業などの複合施設

▼居住・にぎわい機能等のイメージ写真



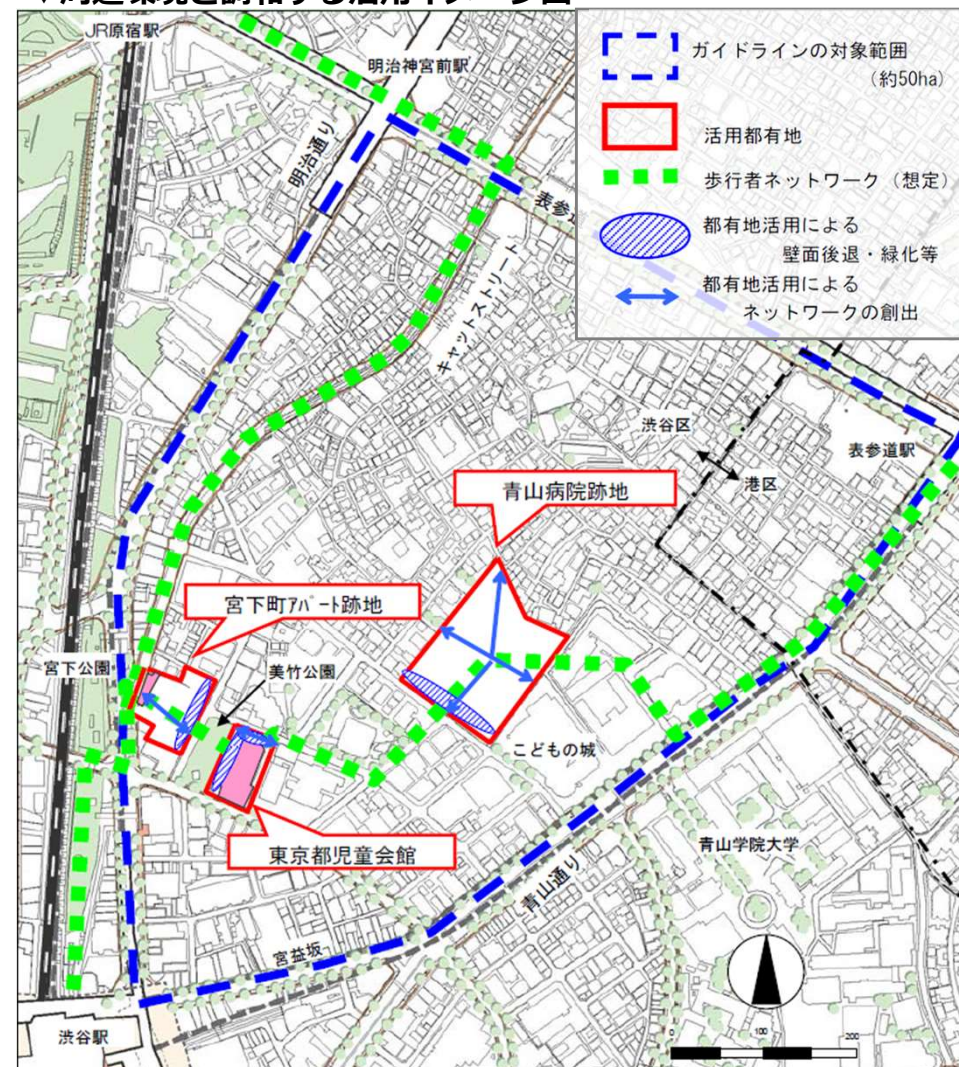
誘導目標③：歩いて楽しいまちを形成

みどりを連ねた開放的空間や、店舗等の集客施設

▼歩行空間等のイメージ写真



▼周辺環境と調和する活用イメージ図



3. 東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項

東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項

国際競争力強化

みどり豊かな 都市環境や景観形成

環境負荷低減 (カーボンニュートラル等)

防災対応力強化

上位計画のまとめ（抜粋）

1. 「未来の東京」戦略ビジョン version up 2022（令和4年）

（政策をバージョンアップする6つの切り口）

- ① 安全安心：都民の命と生活を守る基盤「危機管理」
- ② 共生社会：バリアフリー「段差のない社会」
- ③ グリーン&デジタル：自然と共生した持続可能な都市
- ④ グローバル「世界から選ばれる金融・経済・文化都市」
- ⑤ チルドレンファースト：子供の目線からの政策展開
- ⑥ 都政の構造改革：シン・トセイの加速

2. 都市づくりのグランドデザイン（平成29年）

（都市づくりの目標）

「活力とゆとりのある高度成熟都市」～東京の未来を創ろう～

- ・新たな価値が生まれる舞台として世界中の人々から選択されるとともに、個々人が、様々な地域で住まい方、働き方、憩い方を選択できる都市を目指す
- ・「ESG」の概念も取り込み、最先端技術も活用しながらゼロエミッション東京を目指す
- ・みどりを守り、まちを守り、人を守る。あわせて、東京ならではの価値を高め、持続可能な都市・東京を実現

3. 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和3年）

（国際交流ビジネスゾーンの将来像）

- ・国際的な中枢業務機能が高度に集積した中核的な拠点が複数形成 等（渋谷の将来像）
- ・商業・娯楽施設、コンテンツ系産業、文化・交流機能等が高度に集積
- ・ファッションやエンターテインメントなどの先進的な文化が国内外へ発信
- ・水と緑のネットワークを形成 等（原宿・明治神宮前・表参道・青山一丁目の将来像）
- ・服飾雑貨等の生活文化の発信や交流の拠点が形成
- ・みどり豊かで職・住・遊が融合したまちを形成 等

4. 渋谷地区ステップアップ・ガイドライン（平成23年）

（都用地活用を通じたまちづくりの目標）

- 「渋谷・青山・原宿を結ぶ人の流れを創出し、生活文化やファッション産業等の発信拠点を形成」
- ・創造性を刺激する空間を形成、多様な都心居住を推進、歩いて楽しいまちを形成

（参考）渋谷・青山の地域特性のまとめ（抜粋）

<都市環境・基盤>

- ・計画地周辺には大規模公園及び公園等による緑が分布
- ・計画地内に残る琵琶池の水や豊かな緑 等
- ・計画地周辺の駅は複数の路線が乗り入れ、乗降客数は増加傾向 等

<周辺開発>

- ・渋谷地区の開発
- ・青山通り沿道の開発 等

<エリアマネジメント>

- ・渋谷未来デザインによるまちづくりの取組（デジタルツイン、渋谷ストリートギャラリー等） 等

<機能・産業集積>

- ・業務機能の集積、創業支援施設の集積
- ・クリエイティブ産業の集積（舞台芸術、映像、音楽等）
- ・渋谷駅、表参道、明治神宮前駅周辺に商業機能が集積、計画地の後背には店舗併用住宅が集積
- ・計画地北西側には、独立住宅、集合住宅が集積
- ・教育・文化発信施設、カルチャースクール、大使館が多く立地
- ・外国人観光客の来訪が多い一方でホテルの立地が少ない 等

4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）

【これまでの会議におけるまちづくりに係る御意見（概要）】

会議（開催日）	ポストコロナのまちづくりに関する御意見	計画地や渋谷・青山のまちづくりに関する御意見
第1回有識者会議 （2021年12月27日）	・ ウェルネス、ウェルビーイング、ゼロエミッション、グリーンbyデジタルなど、ポストコロナで価値観が大きく変わってきている。 ・ ウォーカブルや、道路をモビリティ以外にも滞在する空間など、多様な目的に使っているという考え方もある。 ・ 価値観が変わる中で、空間の価値を最大化することが求められる。 ・ 新技術を活用した「集積の不経済」の解消が重要である。（例：混雑や密の解消） ・ 非常時における機能の切り替えや、空間の柔軟性が重要である。 ・ ポストコロナにふさわしい公共空間の在り方が大きな論点である。	・ 成長から成熟、量だけでなく質に結び付けていく議論が必要であり、渋谷や青山には質の高い文化がある。 ・ 計画地の後背に広がる住宅地への配慮が必要である。（周辺住民も納得できる開発） ・ 都民や地元の方々との調和が重要である。 ・ 様々なまちづくりの取組が盛んにおこなわれているため、そのような組織とも連携していくことが重要 ・ 琵琶池など歴史的な要素も適切に評価していく必要がある。 ・ 計画地においては、空の見える公共空間が作ることができると思われる。 ・ 発信や交流が生まれるものになっていくことが望ましい。
第2回有識者会議 （2022年1月24日）	・ デジタルを活用したリアルサービスを受け入れられる柔軟なハードウェアになっているかが大切である。 ・ 先行してデジタル空間を構築し、バーチャル上で良いと思ったものをリアルの空間に反映するという考え方もある。（バーチャルファースト） ・ 特定の新しいものを作るという考え方よりも、変化に耐え得る、入れ替えることができるかどうかという考え方が大切である。 ・ フレームやインフラはしっかりしつつ、将来の不確実性に受け止められるような可変性を有する設えが重要である。 ・ バーチャルと地域の固有性をどう両立させるかは今後とも議論を深めていく。	・ 世界の中で東京がどう存在感を発揮していくか、都心に位置する渋谷や青山がどう在るべきなのか、考えていく必要がある。 ・ 青山の変化が東京にどのように影響するかという視点が重要であり、文化という観点はヒントになり得る。 ・ 青山という土地の東京における位置づけや、歴史・経緯が重要である。（地域の固有性） ・ 機能を考えていくに当たって、具体的なユーザーを考えていく必要がある。

4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）

【いただいた御意見のグルーピング】



4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）

【御意見の背景】

Well-being

人々のウェルビーイングに着目

- 職住近接のニーズが高まる可能性（国）
- 仕事と生活とでは生活を重視するように意識が変化（国）
- 緑とオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所等利用形態が多様化。（国）
- コロナの影響で生命、健康、環境に大きな関心（都）

Real

地域の固有性の重要性

- 身近な自然資源として、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識（国）
- 「リアルな場」に求められるものは、偶然の交流や白熱した議論、実体験を伴うもの、文化やエンターテインメントといった、オンラインでは代替しがたい経験を提供する機能が中心に（国）

コロナ禍を通じて 加速された価値観

Digital

デジタル技術の活用

- テレワークやデジタル化の進展（国）
- データを活用した都市の密度のコントロールに対するニーズの高まり（国）
- コロナ禍により、求められる変革のスピードが更に加速（都）

Flexible

将来の不確実性を受け止める可変性・柔軟性

- 都市を巡る急激な環境の変化への対応（国）
- 過密を避ける観点から、ゆとりがあり、安全かつ良質なオフィスニーズの高まり（国）

凡例 （国）：新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（国土交通省 2020年8月）より引用した文言
（都）：ポスト・コロナにおける東京の構造改革提言（東京都 2020年10月）より引用した文言

4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）

【3つの視点（案）】

視点① Well-being：人々のウェルビーイングに着目したまちづくり

- ウェルネス、ウェルビーイング、「量だけでなく質」などの新たな志向に配慮
- 大都市における集積の考え方を整理し、ポストコロナにふさわしい公共空間整備を推進

委員からの御意見

- ・ 成長から成熟
- ・ 空が見える公共空間
- ・ ゼロエミッション
- ・ ウォーカブル
- ・ 琵琶池など歴史的要素の評価
- ・ 住宅地への配慮

視点② Flexible：将来の不確実性を受け止められるような設えや仕組みづくり

- 技術進化や社会ニーズの変化、平時・非常時に応じて、機能や設備が入れ替えられる空間の柔軟性や可変性を確保

委員からの御意見

- ・ 将来にわたって変化させながら使っていける
- ・ デジタル技術は次々と最新のものに置き換わる
- ・ 平常時と非常時の空間の可変性
- ・ リプレイス可能な空間形成
- ・ 柔軟なハードウェア
- ・ 非常時の切り替え

視点③ Digital & Real：リアルとバーチャルのハイブリッドによる新しい日常の創造

- バーチャルをいかしたまちづくりと、地域の即地性・固有性（風土・歴史・文化等）をいかしたまちづくりの両立

委員からの御意見

- ・ デジタル技術による補完
- ・ デジタルツイン
- ・ グリーン by デジタル
- ・ 都心に位置する渋谷・青山の在り方
- ・ 体験や交流の重要性
- ・ 世界へ発信できる文化

➡ ポストコロナのまちづくりのモデルケースへ

視点

①

Well-being

人々のウェルビーイングに着目したまちづくり

- ウェルネス、ウェルビーイング、「量だけでなく質」などの新たな志向に配慮
- 大都市における集積の考え方を整理し、ポストコロナにふさわしい公共空間整備を推進

委員からの御意見

- ・ 成長から成熟
- ・ 空が見える公共空間
- ・ ゼロエミッション

- ・ ウォーカブル
- ・ 琵琶池など歴史的要素の評価
- ・ 地元との調和、住宅地への配慮

～計画地で想定される具体的なイメージ～

- ・
- ・
- ・
- ・

～実務者による検討において整理すべき事項～

- ・
- ・
- ・

（※） Well-Beingの参考事例

▼ブライアントパーク



出典：ウォーカブルなまちづくり（国土交通省）

▼アルス・エレクトロニカ（フェスティバルによる都市の賑わい形成）



出典：築地再開発検討会議（第5回）会議資料（2018年3月）

視点

②

Flexible

将来の不確実性を受け止められるような設えや仕組みづくり

- 技術進化や社会ニーズの変化、平時・非常時に応じて、機能や設備が入れ替えられる空間の柔軟性や可変性を確保

委員からの御意見

- ・ 将来にわたって変化させながら使っていける
- ・ デジタル技術は次々と最新のものに置き換わる
- ・ 平常時と非常時の空間の可変性

- ・ リプレイス可能な空間形成
- ・ 柔軟なハードウェア
- ・ 非常時の切り替え

～計画地で想定される具体的なイメージ～

- ・
- ・
- ・
- ・

～実務者による検討において整理すべき事項～

- ・
- ・
- ・

（※）Flexibleの参考事例

▼Marunouchi street park（仲通りを公園空間として利用）



出典：大丸有まちづくり協議会 報道発表資料（2021年）

▼ラ・シテ・フェルティル（貨物駅跡地を活用）



出典：ラ・シテ・フェルティルHP

視点 Digital & Real

③ リアルとバーチャルのハイブリッドによる新しい日常の創造

- バーチャルをいかしたまちづくりと、地域の即地性・固有性（風土・歴史・文化等）をいかしたまちづくりの両立

委員からの御意見

- ・ デジタル技術による補完
- ・ デジタルツイン
- ・ グリーン by デジタル

- ・ 都心に位置する渋谷・青山の在り方
- ・ 体験や交流の重要性
- ・ 世界へ発信できる文化

～計画地で想定される具体的なイメージ～

- ・
- ・
- ・
- ・

～実務者による検討において整理すべき事項～

- ・
- ・
- ・

（※） Digital & Realの参考事例

▼バーチャル渋谷（デジタル空間上に渋谷を再現）



出典：バーチャル渋谷特設サイト

▼デジタルツイン渋谷プロジェクト（ARグラスによる可視化）



出典：渋谷未来デザイン

4. ポストコロナのまちづくりの視点（案）

【ポストコロナのまちづくりの視点（案）を踏まえた基本的な取組のバージョンアップ】

東京都の中心部におけるまちづくりの基本的な取組事項

渋谷・青山の地域特性
(都市基盤、機能、周辺開発、まちづくり組織等)

国際競争力強化

みどり豊かな
都市環境や景観形成

環境負荷低減
(カーボンニュートラル等)

防災対応力強化



ポストコロナのまちづくりの視点（案）

視点① Well-being
人々のウェルビーイングに着目したまちづくり

- ウェルネス、ウェルビーイング、「量だけでなく質」などの新たな志向に配慮
- 大都市における集積の考え方を整理し、ポストコロナにふさわしい公共空間整備を推進

視点② Flexible
将来の不確実性を受け止められるような設えや仕組みづくり

- 技術進化や社会ニーズの変化、平時・非常時に応じて、機能や設備が入れ替えられる空間の柔軟性や可変性を確保

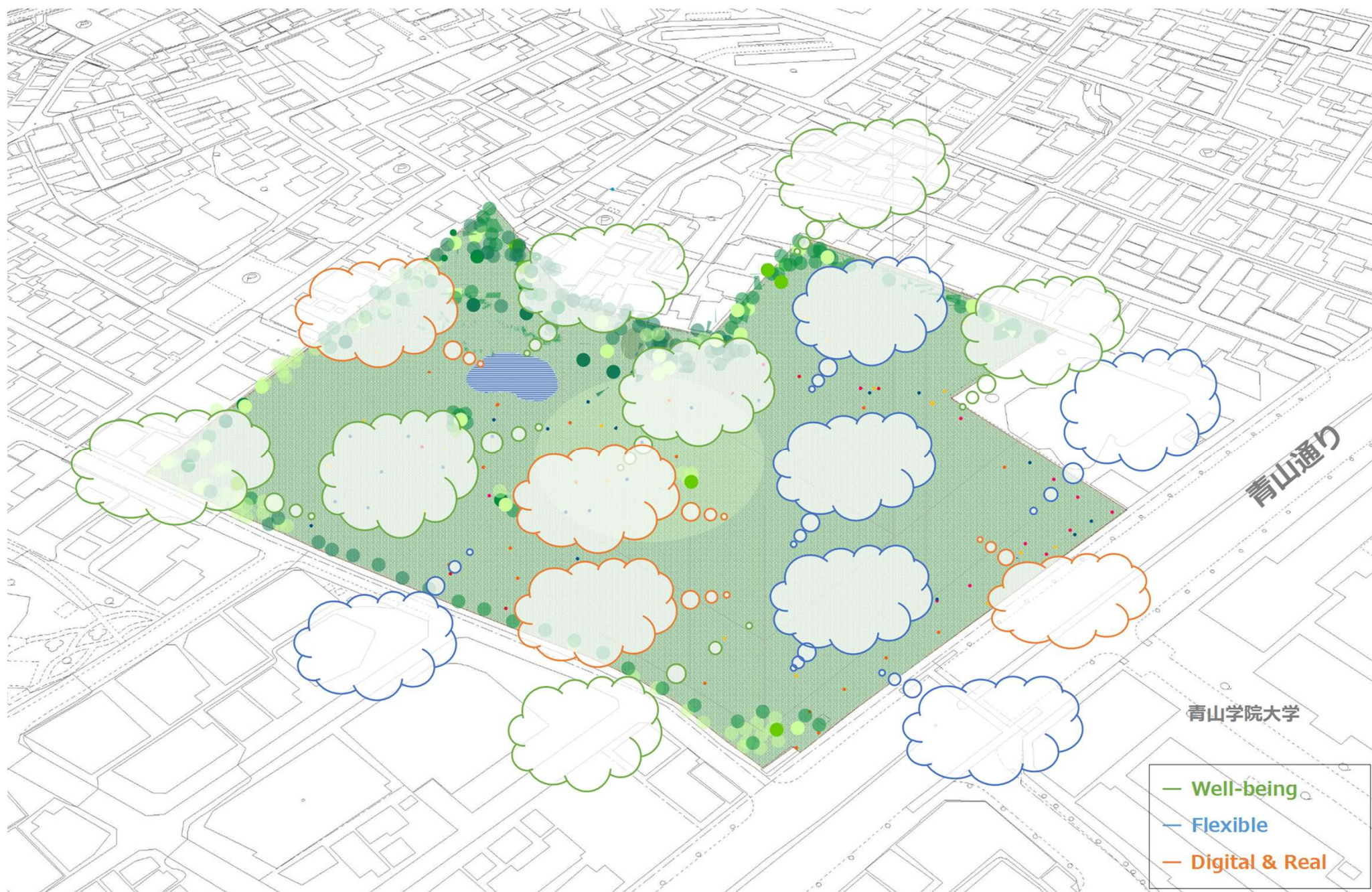
視点③ Digital & Real
リアルとバーチャルのハイブリッドによる新しい日常の創造

- バーチャルをいかしたまちづくりと、地域の即地性・固有性（風土・歴史・文化等）をいかしたまちづくりの両立

基本的な取組の
バージョンアップ

※ポストコロナのまちづくりの視点や渋谷・青山の地域特性を踏まえ、実務者による検討を通じて計画地の取組内容を具体化

(参考) 未来の神宮前五丁目地区のイメージ(案)



神宮前五丁目地区 まちづくりに向けた有識者会議

第3回 会議資料（参考別紙） ～ポストコロナのまちづくりの視点に係る参考事例～

令和4（2022）年4月7日（木）

東京都

目次

ポストコロナの まちづくりの視点	事例	掲載ページ
Well-Being	「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生（令和元年6月 国交省）	p1
	ウォーカブルなまちづくり（令和2年1月27日 国交省）	p2～p3
	南池袋公園（東京都 豊島区）	p4
	清溪川復元事業（韓国 ソウル市）	p5～p6
	Big Dig（アメリカ ボストン）	p7
	キングスクロスの開発（イギリス ロンドン）	p8～p9
	アルス・エレクトロニカ（オーストラリア リンツ）	p10～p11
	スマートウエルネスみつけ（新潟県 見附市）	p12～p14
	スーパーシティ構想（福島県 会津若松市）	p15～p16
	持続可能な街づくり（アメリカ ポートランド）	p17
	東京都内における体験交流の取組・施設	p18
Flexible	Marunouchi Street Park（東京都 千代田区）	p19
	中野四季の森公園（東京都 中野区）	p20
	用途変更の幅を持たせた海外の建築事例	p21
	La Cité Fertile（ラ・シテ・フェルティル）（フランス パンタン）	p22
Digital & Real	都市の3Dデジタルマップの実装に向けた産学官ワーキンググループ(東京都都市整備局)	p23～p26
	バーチャル渋谷（東京都 渋谷区）	p27
	デジタルツイン渋谷プロジェクト（東京都 渋谷区）	p28
	都市計画における生態学的アプローチ（スペイン バルセロナ）	p30
	スマートシティ・スマートオフィスへの取組（オランダ アムステルダム）	p31
	Google Charleston East（アメリカ マウンテンビュー）	p32
	Google Middlefield Park（アメリカ マウンテンビュー）	p33
	Google ダウンタウン複合用途開発計画（アメリカ サンノゼ）	p34
	Apple Park（アメリカ クパチーノ）	p35
	テンセントの都市開発（中国 深圳市）	p36
	Amazon第二本社計画（アメリカ アーリントン）	p37
	ふじえだスマートコンパクトシティの形成（静岡県 藤枝市）	p38
	静岡県掛川市の取組	p39

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ 概要③

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ例

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
 ※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能



居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable

歩きたくなる

居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。

Eye level

まちに開かれた1階

歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見え、人は歩いて楽しくなる。

Diversity

多様な人の多様な用途、使い方

多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。

Open

開かれた空間が心地良い

歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

都市構造の改変等

- 都市構造の改変（通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等）
- 都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等



人間中心の都市空間の構築－ニューヨーク・ブライアントパーク



After

・公園収益：店舗、イベント等から年間約20億円



Before

- ・“全米一の麻薬密売スポット”をBIDにより再生
- ・カフェ、レストラン、読書、ストリートチェス、メリーゴーランド、卓球、スケートリンク等、多様な主体による多様なアクティビティを24時間オールシーズン開催

（出典）Bryant park corporation HP、Project for Public Spaces HP等

人間中心の都市空間の構築ーパリ エッフェル塔周辺の構想



エッフェル塔の周辺の車道を緑地広場にする計画が進行中（完成目標2024年）

チケット売り場やキオスクは、エッフェル塔の地下に埋められ、景観を損なわないような配慮もされる。

（出典）エッフェル塔の周囲から自動車を排除して歩行者専用の広大な庭園を造る計画が発表される

<https://gigazine.net/news/20190523-new-eiffel-tower-park-plan/>

- 区画整理事業で昭和26年に開園し、平成28年にリニューアルオープン
- 約7,800㎡の公園に、青空が見える広大な芝生広場、階段状のデッキ、遊具等が整備され、カフェも併設
- 「サード・プレイス」という理念のもと、住宅（ファースト・プレイス）や職場や学校（セカンド・プレイス）だけでは得られない居心地の良い場所を提供
- 公園内にはイスとテーブルが設置され、一部の利用者はテレワークの場所として活用
- また、本棚と図書（絵本）を設置し、公園内であれば自由に閲覧可能

▼公園内のにぎわいの様子



出典：豊島区HP

▼公園内でテレワークをする利用者（※）



▼広場を眺めながら憩う利用者（※）



▼公園内で自由に読める絵本（本棚）（※）



（※）事務局撮影（2022年）

資料の出典：東京高速道路（KK線）の既存施設のあり方検討会 第2回会議（資料編）

高架施設における国内外の類似事例概要 ～清溪川(ソウル)～

全部撤去

貨物鉄道 ⇒ 河川・遊歩道

【再整備後の施設概要】

- 延長約5.8km、幅員約16m（河川部分）
- ソウル都心を貫通する清溪川を覆う高速道路（支線部分）を撤去し、道路整備前の清溪川を復元
- 掘割の河川沿いに遊歩道並びにベンチを配置し、快適な歩行空間、寛ぎ空間を整備
- 水生植物など河川環境にマッチしたナチュラルな植生を配置
- 洪水調整機能（橋下に排水口あり）を有しているため利便施設などは無し
- 地上部分から掘割部分は主に階段で接続

背景

- 1991～1992年の精密安全診断により安全性に大きな問題があるとの指摘
- 都心の交通混雑、大気汚染や騒音公害などの都市環境の悪化の進行
- ソウルの歴史と文化の回復
- 清溪川周辺地域開発の活性化
- 老朽化が顕著となり、担う社会的機能（役割）の継続が困難
- 時代の移り変わりにより、担う社会的機能（役割）の変化

方法

- 環状道路から市庁舎に向かう高速道路の支線部分を撤去し跡地を有効活用（河川復元）

形成されたネットワーク

- 歩行者ネットワーク
- 緑のネットワーク
- 水（治水）のネットワーク

創出・付与された機能

- 観光拠点機能
- 歩行者動線機能
- 休息機能
- 自然環境創出保全機能
- 洪水調整機能

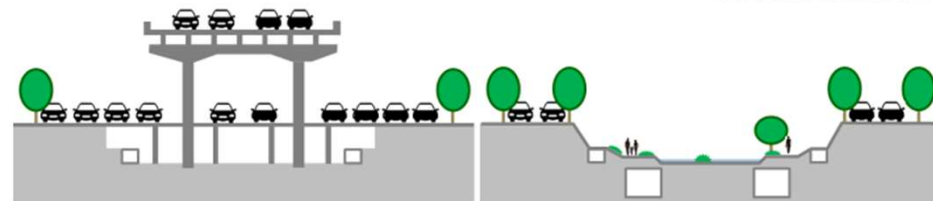
解決された課題

- 高架施設の撤去と河川の復元により、都市環境の改善、歴史文化の回復がなされた。
- 緑を導入することで、都市内に潤いが生まれ、都市環境が改善された。
- 多くの来訪者を生み、地域経済の活性化、治安の回復につながった。
- 整備に合わせ周辺開発が促進されたことで、更なる地域経済の活性化につながった

効果

- 高架施設を撤去し従来の河川を復元することで、都市内にオープンスペースが生まれ、都市環境の改善につながった。

【整備後の機能・空間構成状況】



整備前の高架高速道路



復元された清溪川

< 従前 >

< 再整備後 >

整備時期	整備費	整備対象	所有者等	維持管理運営主体
2003年：高架施設撤去 河川復元工事開始 2005年：工事完了	3867億₩（約348億円） ※1₩=0.09円換算	- 覆蓋構造物と高架道路の解体 - 水路と川底の造成 - 維持用水の供給 22の橋梁建設 - 河川景観造成	ソウル市	ソウル市

（現在のにぎわいの様子）



出典：韓国観光公社公式サイト 清溪川

資料の出典：東京高速道路（KK線）の既存施設のあり方検討会 第2回会議（資料編）

高架施設における国内外の類似事例概要 ～ローズ・ケネディ・グリーンウェイ(ボストン)～

全部撤去
(地下化)

道路 ⇒ 公園・遊歩道・商業施設等

【再整備後の施設概要】

- ・延長約2.4km、幅員約35～50m
- ・ボストン都市部を南北に通過していた高架高速道路の地下化に伴い跡地を緑化空間として整備
- ・芝生や広場で構成されたオープンスペースと高木の緑陰がある遊歩道による快適な歩行空間、
- ・寛ぎ空間を整備
- ・マクロ的には連続した緑地であるが、比較的大きな道路の横断により空間は途切れる

【整備後の機能・空間構成状況】

出典：ウェブサイト「THE GREEN WAY」(BOSCONIAD MAP)参照
https://www.bostonmapp.com/map-content/uploads/2018/08/Greenway_Map-4.jpg

背景

- ・交通事故の多発（連邦政府の定める基準が適用される前に建設、州間高速道路システムの安全要件を満たしていなかった）
- ・想定を上回る交通量による慢性的な渋滞
- ・施設によりダウンタウンから分断されていたエリアの活性化
- 時代の移り変わりにより、既存施設の担う社会的機能（役割）を代替施設に転換

方法

- ・高架施設を撤去し跡地を有効活用（高架道路を地下化し車線を増築）
- ・撤去後跡地を含めた広域で複数の大規模再開発を促進

形成されたネットワーク

- ・歩行者ネットワーク（全方向的）
- ・自動車ネットワーク（横断方向）
- ・物流ネットワーク
- ・緑のネットワーク

創出・付与された機能

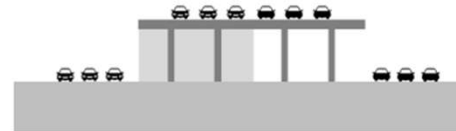
- ・観光拠点機能
- ・歩行者動線
- ・自動車動線（横断）
- ・休息機能
- ・自然環境創出機能

解決された課題

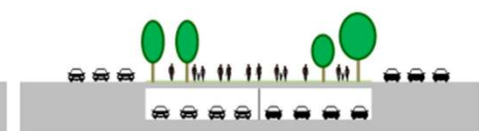
- ・高架道路の撤去（高速道路の地下化）により、都市環境の改善につながった。
- ・エリアダウンタウンとノースエンド、ウォーターフロント間の分断が解消された。
- ・緑を導入することで、都市内に潤いが生まれ、都市環境が改善された。
- ・多くの来訪者を生み、地域経済の活性化、治安の回復につながった。
- ・整備に合わせ周辺開発が促進されたことで更なる地域経済の活性化につながった。

効果

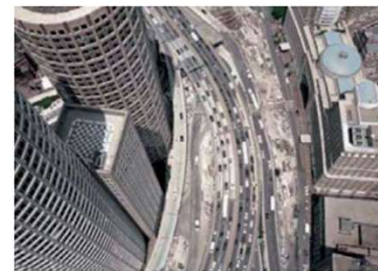
- ・ダウンタウンとノースエンド、ウォーターフロントを分断していた高架施設を撤去することで、心理的、物理的につなぎエリア間の往来（人的、物的）の促進につながった



<従前>



<再整備後>

出典：「歴史都市、ボストンの都市計画とビッグ・ディグ」
「2014年度都市計画、都市開発の現状と展望」掲載写真出典：「歴史都市、ボストンの都市計画とビッグ・ディグ」
「2014年度都市計画、都市開発の現状と展望」掲載写真

整備時期	整備費	整備対象	所有者等	維持管理運営主体
・1980年代：コンベの実施 ・2004年：高架施設撤去 ・2005年：跡地空間整備開始 ・2008年：公園完成	※Big Digプロジェクトとして 146億\$（約1兆5,800億円） 1\$=108円換算 ※ローズ・ケネディ・グリーンウェイ の整備費は含まれていない	・高速道路地下化 ・橋の架け替え及び ・チャールズ川兩岸の緑地整備 ・空港連絡トンネル整備	・マサチューセッツ州	・ローズ・フィッチェラルド・ ケネディ・グリーンウェイ管理協会

19

資料の出典：築地再開発検討会議（第4回）会議資料より（2018年3月）

○オープンスペースを中心とする再開発により エリアイメージを刷新

- 十分なオープンスペースを確保した
キングスクロス駅北側約27haの再開発
計画（2021年エリア全体竣工予定）
- 地区内には芸術大学のキャンパスがあり
IT企業の立地が予定されるなど、多様な
人々が来訪



（公共空間先進事例欧州視察報告書（渋谷区）より抜粋）



出典：画像©2018Google、地図データ©2018Google 12

資料の出典：築地再開発検討会議（第4回）会議資料より（2018年3月）

○オープンスペースを中心とする再開発により エリアイメージを刷新

○グラナリー広場は2012年より順次オープン

○噴水が吹上げ、子ども連れや学生の憩いの場となっている

出典：画像©2018Google、地図データ©2018Google



資料の出典：築地再開発検討会議（第5回）会議資料より（2018年3月）

文化・芸術プログラムがまちの魅力・価値の向上に重要な役割を果たした事例 リンツ：フェスティバルを中心に都市の賑わいを生むアルス・エレクトロニカ

○アルス・エレクトロニカフェスティバルの開催（1979年）の後、メディアアートのコペティションやアルス・エレクトロニカセンターの設立などを経て、現在は、メディア・カルチャーの領域で国際的なネットワークハブを展開

○2009年には、リンツ市が欧州文化首都に選定

参考：アルス・エレクトロニカHP



アルス・エレクトロニカセンター（2009年にリニューアル）



出典：画像©2018Google、地図データ©2018Google 15

資料の出典：築地再開発検討会議（第5回）会議資料より（2018年3月）

文化・芸術プログラムがまちの魅力・価値の向上に重要な役割を果たした事例

リンツ：フェスティバルを中心に都市の賑わいを生むアルス・エレクトロニカ

- 1979年から毎年行われている最先端のアート、テクノロジーが集まるアルス・エレクトロニカフェスティバルは、約5日間程度にわたって開催される。
- 展示だけでなく、カンファレンスやワークショップ、パフォーマンス等が街を使って開催され、例年約9万人前後が来訪
- ドナウ川沿いのオープンスペースや街なかのオープンスペース等を使ったプログラム等も特徴

夜のドナウ川沿い（ドローンを用いたインスタレーション）



アルスエレクトロニカセンター（デジタルアートとサイエンス等）



OKセンター（テクノロジー・アート）



ポストシティ：郵便局のリノベーション（メイン会場・カンファレンス等）

16

- 人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を「健幸（けんこう）＝ウェルネス」と呼び、まちづくりの中核に据えていこうという考え方

施策の例：外出したくなる場所や活動づくり、移動を支援するための公共交通の再整備を推進

健幸なまちの将来像



都市部の集約と周辺地域の生活圏持続

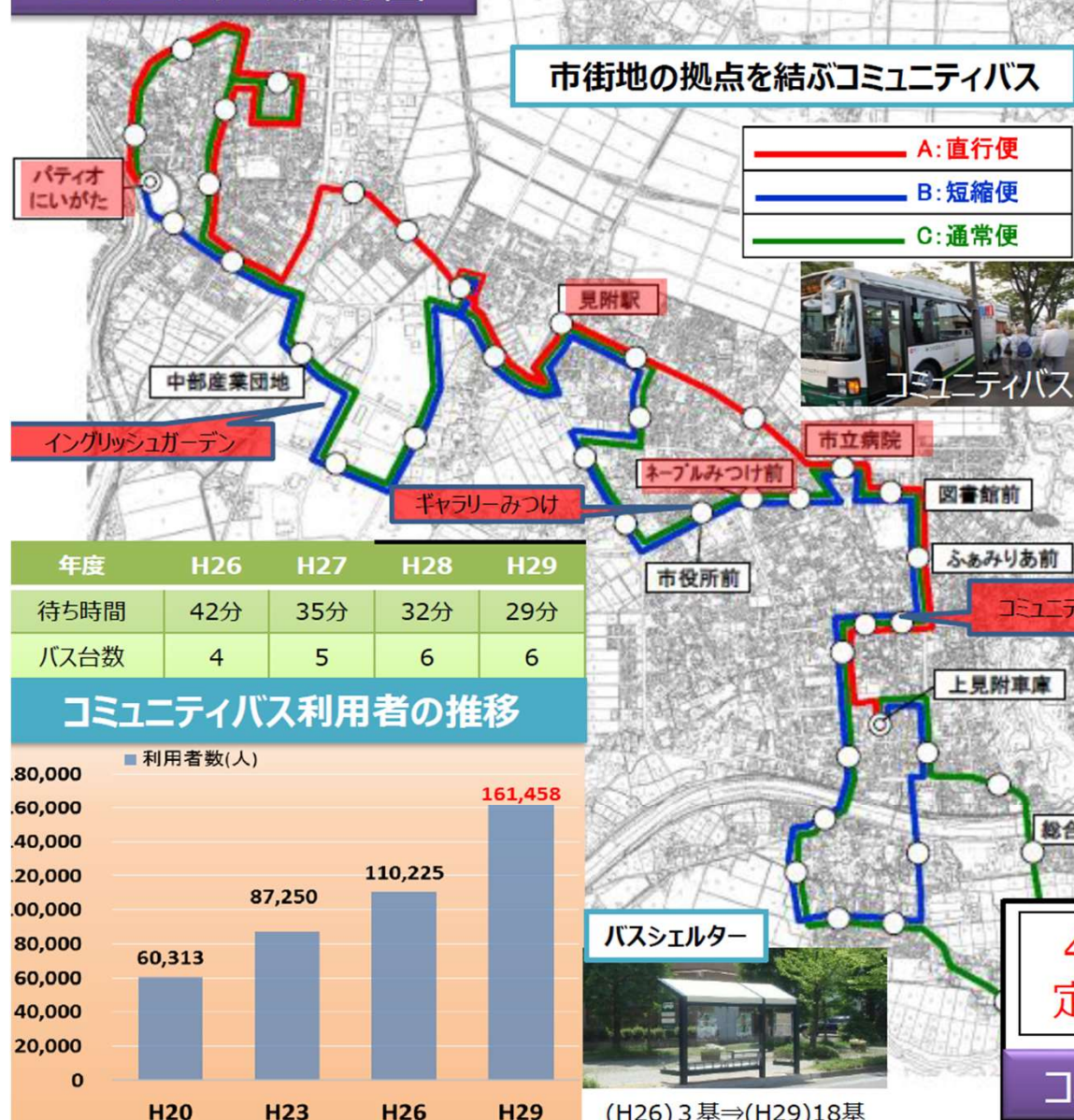
キーワード

公共交通、市街地活性化、地域包括ケア、産業振興、雇用確保、子育て環境、
住み替え、生活環境、防災、地域コミュニティ

出典：見附市HP

【施策3】 地域公共交通の再整備

コミュニティバス路線図



デマンドタクシー運行エリア



公共交通の整備で生活の足を確保

- 中心市街地 ⇔ 既存集落・周辺地域
居住エリア ⇔ 各種サービス施設を連結
- ・路線バス（広域）
 - ・コミュニティバス（市街地）
 - ・デマンドタクシー（郊外）
 - ・コミュニティワゴン（地域コミュニティ）

4地区で定期運行

コミュニティワゴン



出典：見附市HP

【施策4-1】 社会参加(外出)できる場づくり

【ハード】

人の交流拠点

外出の目的地



ネーブルみつけ

H16年度オープン時 15万人
⇒H29年度利用者 46.5万人



イングリッシュガーデン

H21年度オープン時 5.6万人
⇒H29年度入場者 14万人



ふるさとセンター

地域コミュニティの拠点市内11ヶ所



道の駅 パティオにいがた

H25年度オープン時 47万人
⇒H29年度利用者 109万人



ギャラリーみつけ

旧法務局をリノベーション
H27年度オープン時 0.8万人
⇒H29年度入場者 5万人



みつけ健幸の湯・ほっとぴあ
コミュニティ銭湯

H28年度オープン時 120,644人
⇒H29年度利用者 198,214人

【ソフト】

生きがい
社会貢献

悠々ライフ



H17年度51事業1,061人
⇒H29年度311事業
延べ6,292人参加

ナチュラルガーデンクラブ



H30年度 会員118名
イングリッシュガーデンの日常管理
⇒H30内閣総理大臣表彰受賞

地域コミュニティ



H30年6月市内11地区目の
組織を設立
⇒市内全域100%をカバー

共創郷育 地域コーディネーター



学校に関わった地域の人
701人(H17) →8,058人 (H29)

健康サポートクラブ



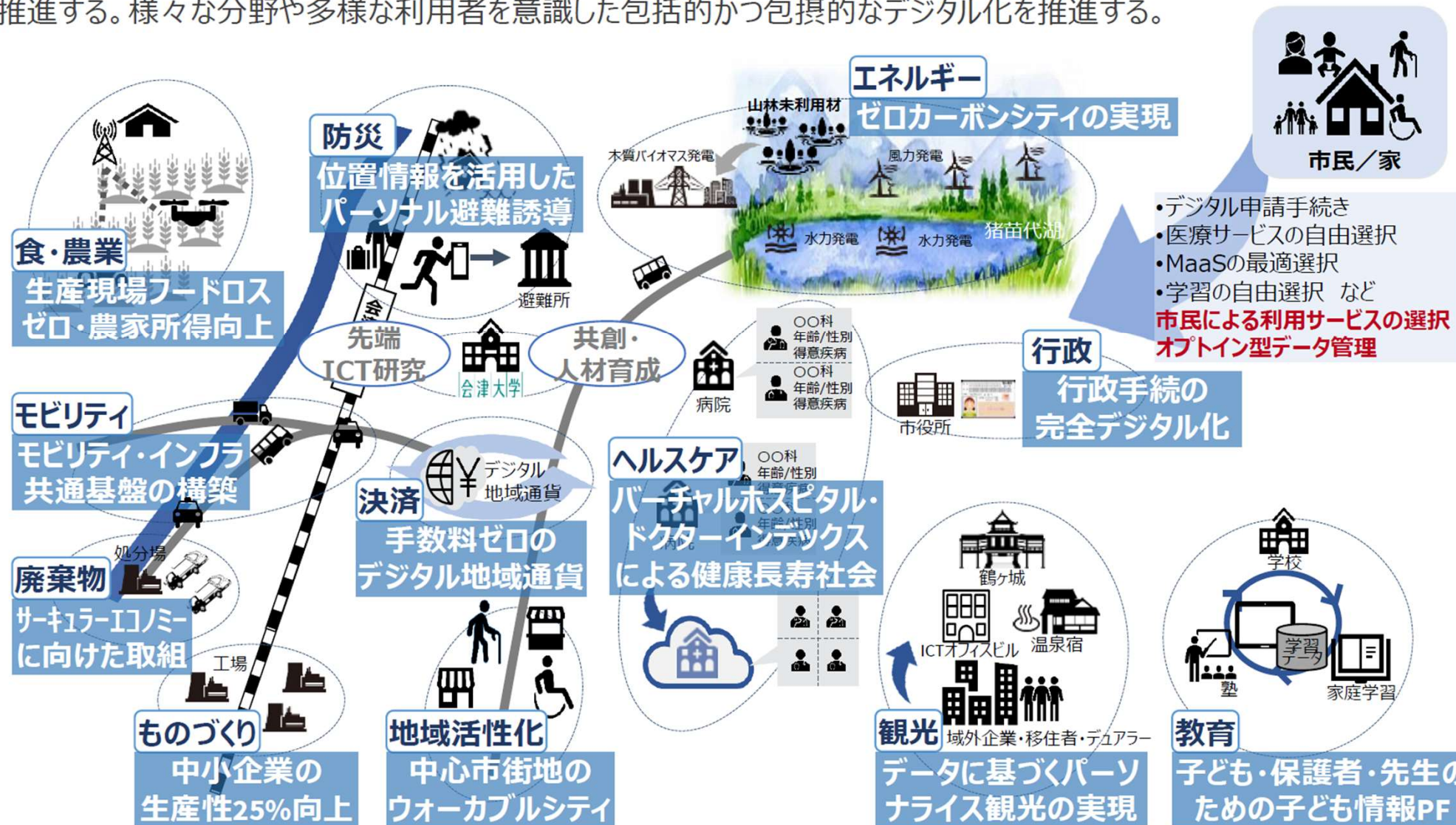
H29 ナイトウォキング 347人
(年31回) /早朝ラジオ体操
10,497人参加 (年167日)

6/16

出典：見附市HP

Aizuwakamatsu City 会津若松市 本市のスーパーシティ構想の全体概要

スマートシティ会津若松の取組を踏襲し、**市民生活に密接した12分野**において、本市の伝統・歴史・文化・景観などを生かしながらデジタルを活用することで、地域の利便性・持続性等を向上させる**ブラウンフィールドでのスーパーシティ**を推進する。様々な分野や多様な利用者を意識した包括的かつ包摂的なデジタル化を推進する。



出典：会津若松市HP

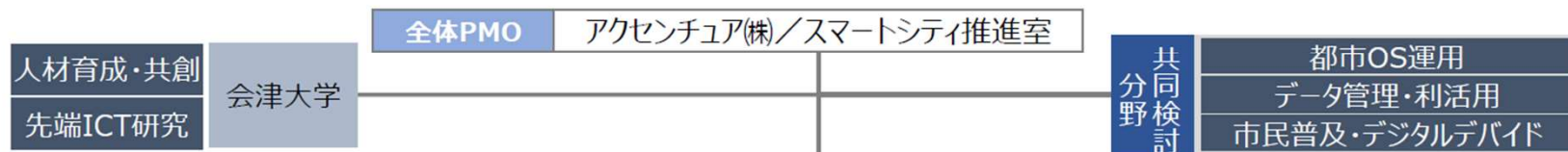


会津若松市 スーパーシティ構想の推進体制

スマートシティAiCTに入居するICT関連企業を中心に、会津大学や地元企業と連携しながら、産官学一体でスーパーシティの取組を推進する。また、各分野ごとに設置したリーダー企業を中心に、当該分野の取組内容を市や地域関係者と協議しながら実現していく。ICT・デジタルに限らず、専門家や地域の意見を聞きながら推進するため、様々な知見を持つアドバイザーを招へい。



事業推進・実施主体 市 × 会津大学 × (一社) スーパーシティAiCTコンソーシアム※ × 関係団体等



分野別WG (各WGのリーダー企業／市の主担当課／地域の関連団体等)



出典：会津若松市HP

- 街区の1辺を通常の半分である60mとして、徒歩で移動できる範囲に居住地や職場、生活に必要なスーパーなどの施設を配置したウォークアブルなコンパクトシティ
- 都市部と農地や森林などの土地利用を区分する「都市成長境界線」を導入し、農地や森林を保全すると同時に、都市部の土地利用の効率化を進めた
- 1階部分は店舗やカフェの商業施設、上階にオフィスや住居を置く「ミックスドユース」がなされている。90年代は中心部の人口増加率26%に対し、宅地面積は8%の上昇にとどまり、公共交通の利用は5～10倍、徒歩は3倍、車の移動・所有も半減した
- 自動車に比べエネルギー効率のよい公共交通機関を普及させるべく、ライトレールやストリートカーといった次世代の市電やバス路線を整備。公共交通機関の利用者を増加させた。脱・車社会を実現し、自転車専用レーン、バスや電車など公共交通機関への自転車持ち込みが許可されている
- 市や住民たちは建物の環境性能にこだわり、市がかかわる全ての建物を、なるべく環境負荷を減らし生物多様性にも配慮した「グリーンビルディング」として、省エネ性能が高いビルを認定する世界的基準「LEED認証」を導入
- 「エコトラストビル」：建設時に係る消費エネルギーを可能な限り減らすために、建設時の廃材のほぼ全てを再利用。自然光の活用や植栽を水の浄化、断熱に利用する等の省エネルギーの取組がなされている



エコトラストビル



ポートランドの街並み



ミックスドユース

Source : DaiwaHouseGroupHP、マイ大阪ガスHP、JAPAN SHOP（ニュースサイト）

アートカルチャー体験100（東京都内）

- 東京都歴史文化財団が都立の文化施設と連携し、様々なテーマの参加・体験型のイベントを実施

▼アートカルチャー体験100



出典：公益財団法人東京都歴史文化財団HP

▼インクルーシブダンス 連続ワークショップ



出典：東京芸術劇場HP

▼ミュージックワークショップ



出典：東京文化会館HP

代官山ティーンズクリエイティブ（東京都渋谷区）

- 2015年にオープンした渋谷区立の青少年施設
- 渋谷区在住又は在学の高校生までの青少年を利用対象として、アートやパフォーマンスをテーマにした催しを実施

▼子どもとクリエイターとの交流の様子



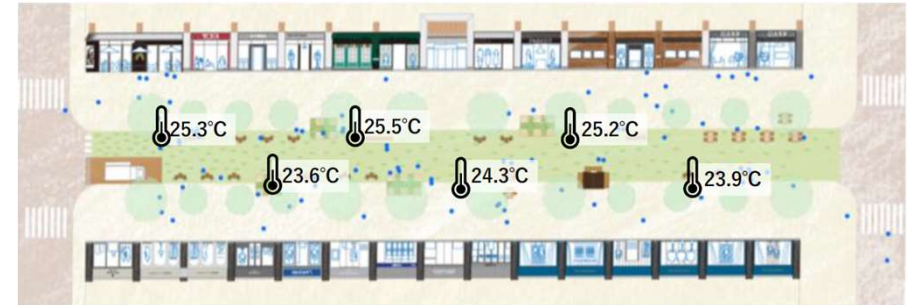
各出典：代官山ティーンズクリエイティブHP

- 大手町・丸の内・有楽町のエリアマネジメントの一環として2019年より始まった社会実験
- 丸の内仲通りを天然芝の公園空間へと変え、「都心の広場空間、屋外のゆとり空間」としての道路の新しい活用方法を検証

▼開催の様子



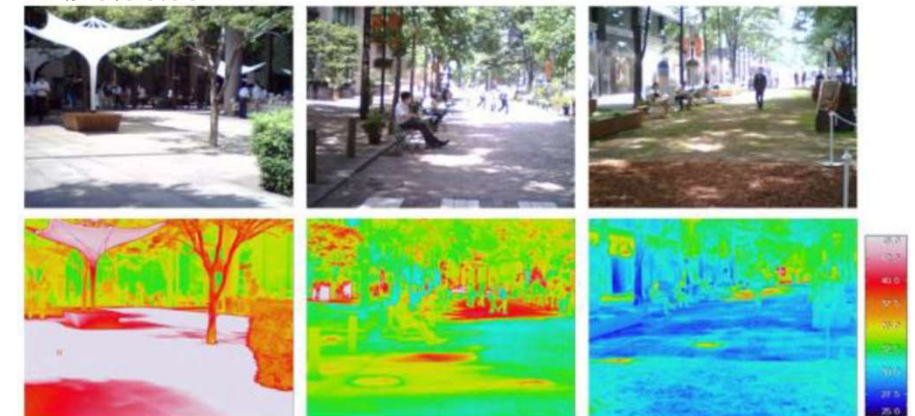
▼人流及び気温データのホームページ投影イメージ (青い点が人流を示す)



▼就業者の快適性検証イメージ



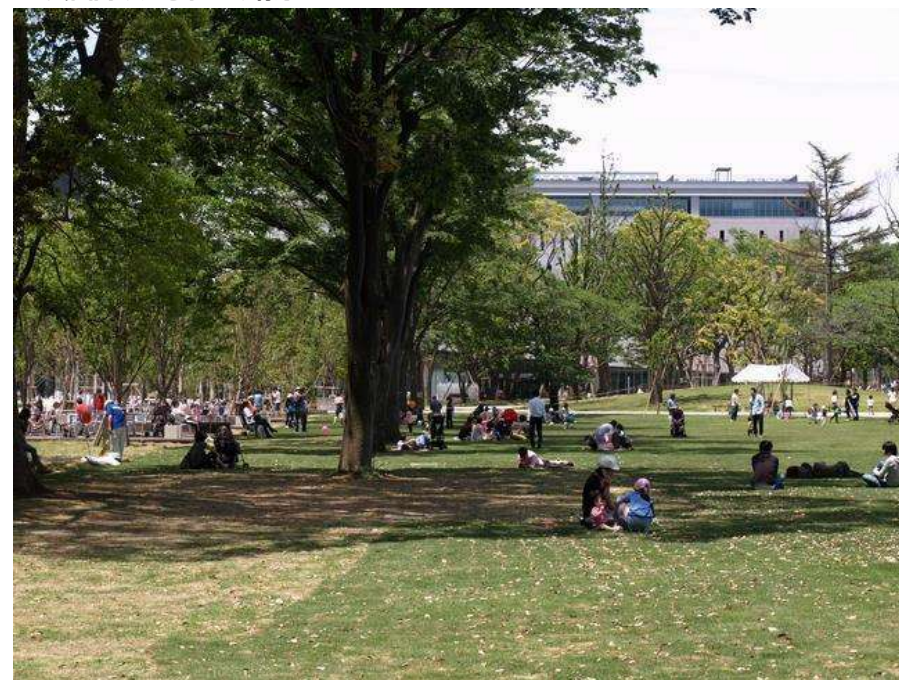
▼温熱環境計測イメージ



各図・イメージの出典：大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 報道発表資料（2021年）

- 2012年にオープンした防災公園
- 休日には家族連れやスポーツをする人々で賑わい、イベントの会場としても活用
- 防災公園として様々な設備を有し、災害時における避難場所及び活動拠点として機能
- 当公園から一時滞在施設への帰宅困難者の避難誘導や、災害に関する情報提供ステーションの設置も想定

▼公園内のにぎわいの様子



出典：中野区HP

▼公園内の防災設備



各出典：中野セントラルパークHP

▼防災訓練の様子（帰宅困難者対策訓練）

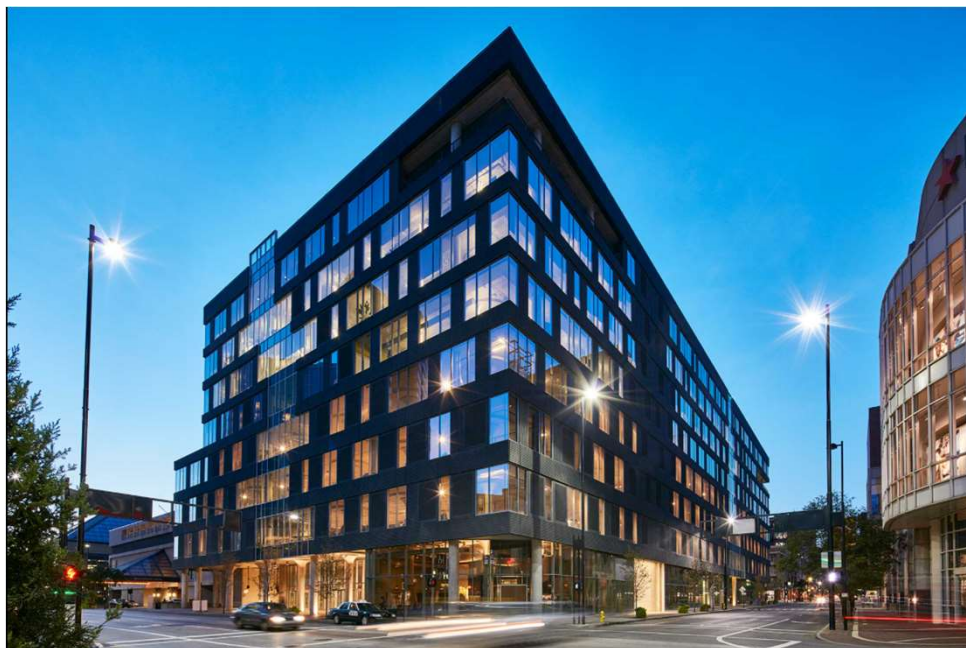


出典：中野区報道発表資料（2016年）

84.51° Centre (アメリカ オハイオ州)

- ・ オフィス、商業等からなる複合施設
- ・ 3階～5階に自走式の駐車場を設置しており、将来的に駐車場需要が減少した場合、オフィスフロアへコンバージョン可能

▼84.51° Centre 建物外観



出典：Gensler HP

Solids (オランダ アムステルダム)

- ・ 用途変更を行い長期間にわたって建物を使い続けられることを目標に設計
- ・ オフィス、住宅、店舗など、自由度の高い用途変更が可能
- ・ スケルトン賃貸方式を採用し、入居者はネット上のオークションによって決定

▼Solids 完成予想図



出典：建材試験情報（2016年12月号）／一般社団法人建材試験センター

- ・フランス国鉄の貨物駅跡地を活用し、サードプレイスとして整備された空間（※自宅や職場などメインとなる生活空間とは別の、もう一つのソーシャルな空間）
- ・「持続可能」をテーマに、雨水を利用した菜園や中庭、水を使わないトイレ、地産地消を実現する飲食スタンドを設置
- ・週末にはアーティストのマーケットやヨガ教室、各種アトリエなど、複数の文化イベントが開催
- ・各文化イベントは入場無料となっており、文化活動との関わりが少ない人々などでも気軽に参加できるようになっている。

▼施設の外観



▼中庭の様子



▼水を使わないトイレ



▼イベント開催の様子



各写真の出典：ラ・シテ・フェルティルHP
 文章は未来コトハジメ「パリ郊外のサードプレイスが示唆する持続可能な都市と経済のかたち」を基に作成

まちづくりのデジタルトランスフォーメーション（UDX）



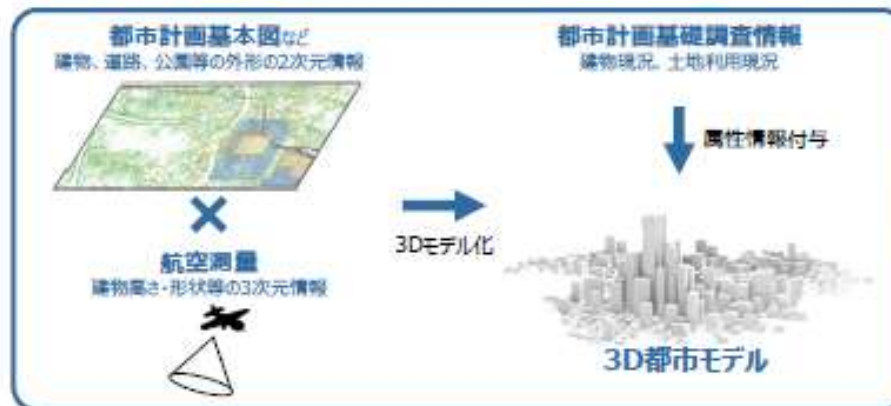
PLATEAU
by MLIT



国土交通省

○3D都市モデルのデータ作成

「都市計画基本図」等の2次元図形情報と航空測量等によって取得される建物・地形の高さや建物の形状情報を掛け合わせて、建物等の3次元モデルを作成。建物に都市計画基礎調査等によって取得された属性情報（都市空間の意味情報）を付加して3D都市モデルを構築。



○3D都市モデルのユースケース開発

3D都市モデルを活用した多様なユースケース開発の実証実験／フィージビリティスタディを全国で実施。



○オープンデータ化、活用ムーブメントの惹起

◆地方公共団体による作成・利活用支援

3D都市モデルに関する各種マニュアル・ガイドライン等の整備

3D都市モデル、データ製品仕様書・作成手順書の作成・公表

利活用マニュアル、活用事例集の作成・公表

◆各種メディア等を通じた情報発信

特設ウェブサイトの開設や3D都市モデルのビューアーの開発など



◆オープンデータ化

全国約50都市の3D都市モデルを誰もが利用可能な形でダウンロード公開

全体最適、市民参加型の機動的な都市インフラ開発・まちづくりの実現

全体最適・持続可能なまちづくり

防災・環境・交通等の多様な都市課題を分析し、統合的な構想・計画に基づいたまちづくりを推進。

人間中心・市民参加型のまちづくり

具体的で精緻なまちの現状・将来をわかりやすく可視化し、多様な主体の参画によるまちづくりを実現

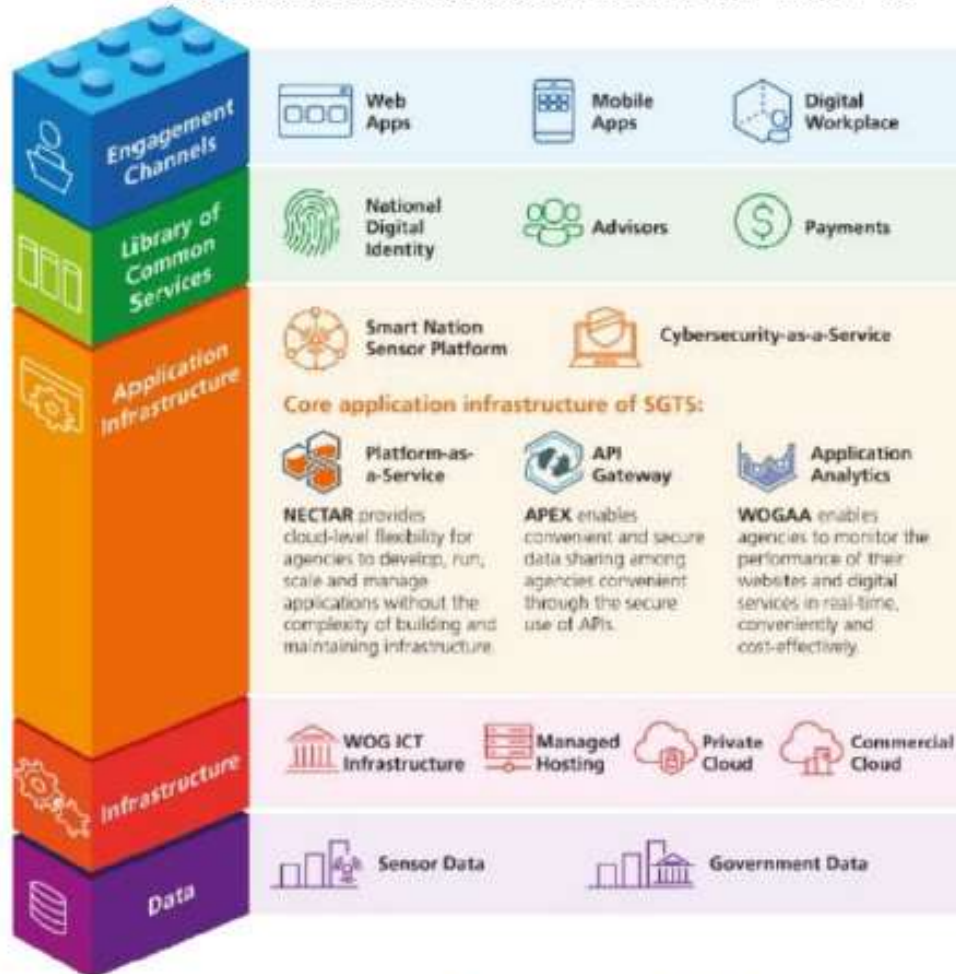
機動的で機敏なまちづくり

中長期的なまちの静的なデータに、人の流れなどの都市活動のデータを再現・予測

【参考事例】バーチャルシンガポール（1／2）

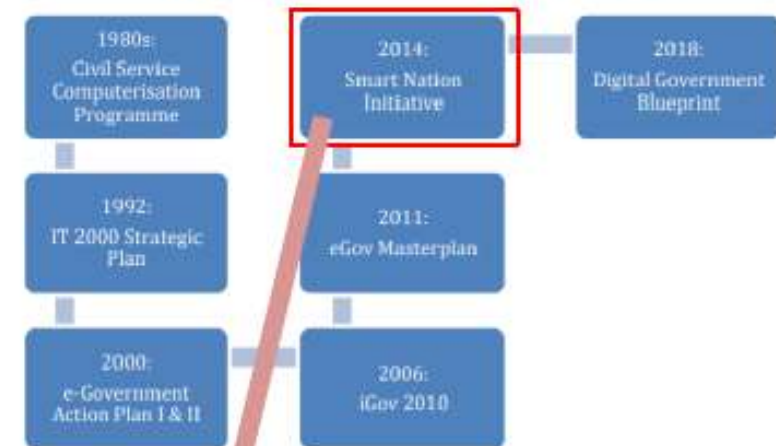
- シンガポールのデジタルガバメント施策「Smart Nation」（2014年にスタート）のプロジェクトの一環として構築された3D都市モデルによるコラボレーションデータプラットフォーム、2018年に完成

Smart Nation デジタルガバメントプラットフォームイメージ



（“Singapore’s Smart Nation Initiative – A Policy and Organisational Perspective”
 “Standardisation Needs for the Smart City: The Singapore Experience”より）

シンガポール デジタルガバメント施策の変遷



Smart Nation Initiativeのカテゴリ



バーチャルシンガポールは、
 Smart Nation施策の「Urban
 Living」の重点プロジェクトと
 して位置付けられている



Virtual Singapore
 A dynamic 3D modelling platform for
 collaborative planning

【参考事例】バーチャルシンガポール（2 / 2）

- 人口、エネルギー、インフラなどの都市課題を解決するためのシミュレーション基盤
- 建物モデルに属性を持たせる、BIMと組み合わせるなどにより、セマンティックな利用を可能としている
- リアルタイムデータ（気温、騒音、風況等）を利用したダイナミック3Dプラットフォームを実現
- 2019年からは、地下埋設物のデータ作成に取り組んでいる

※ダッソー・システムズ 3D EXPERIENCEプラットフォーム利用

バーチャルシンガポール



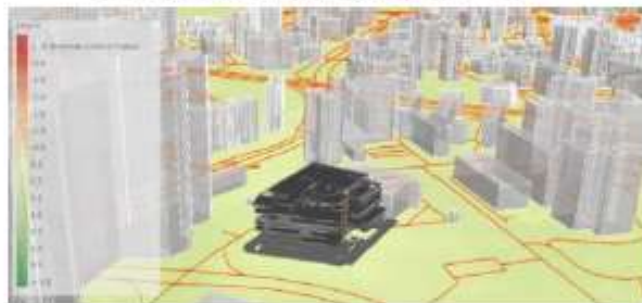
3D建物全体が持つ属性を確認できる



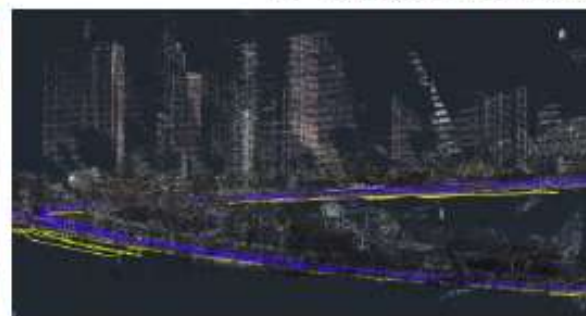
3D建物のうち、特定の窓が持つ属性を確認できる



LOD2にBIMを組み合わせたイメージ



レーダを使って路面下の埋設物のデータ化に取り組市中



(Virtual Singapore ホームページより)

※開発中であり変更があり得る



3. ユースケース

④ 3D都市モデルを活用した民間市場の創出

ニューノーマルへの対応

□ パーチャル都市空間における体験価値の提供



- ー百貨店と連携し、バーチャルショッピングが可能な都市空間を構築。
- ー単なるECサービスではなく、周辺も取り込んだ仮想都市空間を構成し、様々なコンテンツを組み合わせることで、外出控えの中でもまちあるき・体験価値を提供する。

新規事業の創設／サービスの高度化

□ ドローン物流システムの高度化



- ードローンシステム会社と連携し、3D都市モデルを活用したドローン管制システム（UTM）を構築。航行管制や飛行計画立案時のシミュレーション（ビル風、交通量、他の飛行体）等に利用。
- ー新技術と連携して新たなソリューション/市場創出。

- 「バーチャル渋谷」は、いわば「マイクラフト」や「あつまれ どうぶつの森」で渋谷の街を再現したように、皆が集まれるオンライン空間です。
- 構築にはKDDIが出資する3DCGのバーチャルイベントプラットフォーム「cluster」（クラスター）を活用。街へはスマートフォンの「cluster」アプリや、PC・VRゴーグルなどからアクセスでき、アバターに扮して友達と渋谷の街を歩き回ったり、バーチャルのスクランブル交差点の前で自撮り撮影も行えます。



- デジタルツイン技術を活用してスマートなまちづくりの実現を目指すプロジェクト
- 第一弾の取組として、「ササハタハツエリア」(*)において、官民のデータ活用によりデジタルツインを構築・可視化（※大山町・笹塚・西原・幡ヶ谷・初台・本町周辺地域）
- ブラウザやARグラスから可視化及び共有することにより、3次元空間を活かした分析・シミュレーションが可能

▼ササハタハツ緑道エリアの様子



▼渋谷区の持つ樹木の診断カルテ情報などのデータを可視化



▼ARグラスを通して現実世界にデータを重ね合わせた様子



- デジタルツインとは「リアル（物理）空間にある情報をIoTなどで集め、送信されたデータを元にサイバー（仮想）空間でリアル空間を再現する技術」である。
- 現実世界の環境を仮想空間にコピーする鏡の中の世界のようなイメージであり、「デジタルの双子」の意味を込めてデジタルツインと呼ばれる。



- スペインバルセロナ市にて実現中の、生態学的観点から考える市民中心のスマートシティ
- バルセロナは、2014年に「革新的なソリューションを通して市民生活を改善した自治体」を評価するEUの「欧州イノベーション首都」（European Capital of Innovation）に選ばれた
- 「City OS」：都市のリアルタイムデータを一元管理する統合プラットフォームと、それらを市民に公開するウェブポータル

バルセロナの市内各所にはセンサーが設置され、センサーから得られた情報はシステムで一元管理される。

そのデータをもとに、散水・噴水・上下水道システムの自動運転や遠隔操作による水資源の節約、街路灯ごとの明るさや点灯・消灯時間の制御によるエネルギーの効率化、交通渋滞の緩和などを実現してきた

- 「Decidim」：市民自らが課題を発見・共有し新たな政策を提案するためのオンライン参加型プラットフォーム
2016年から2019年の3年間で、既に市民の70%が登録しており、9000以上の市民からの新たな政策提案が集まっている

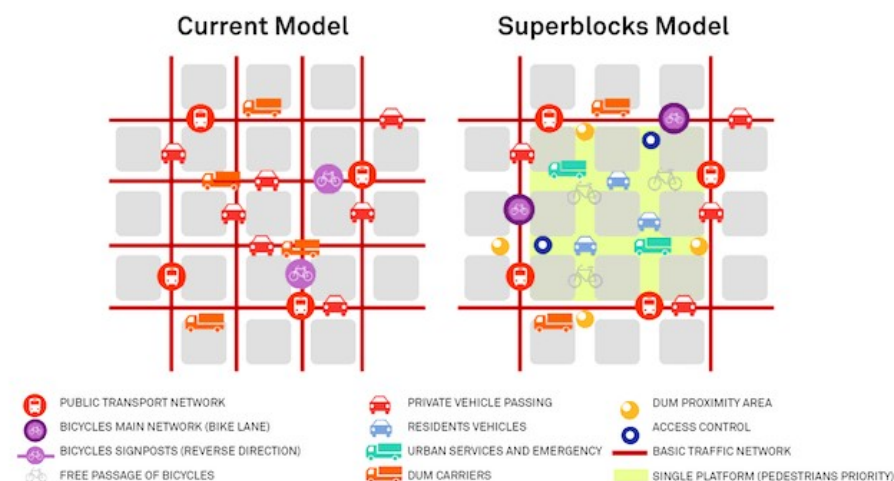
- 「スーパーブロック・プロジェクト」：碁盤の目状の区間の一部を歩行者と自転車専用のスーパーブロック（特別区間）にすることで、市民の安全と健康を守るプロジェクト

スーパーブロック内の道路は全て一方通行で、速度も低速で制限される

- ひとつひとつのスーパーブロックは、それぞれ約400～500m四方の広さに、約6000人の市民が暮らし、約400の事業者が活動できる「ユニット」（単位）として捉えられており、そこで消費されるエネルギーや自然資源の量は街角に設置されているセンサーで計測される
- 排気ガス削減などの環境改善により年間死亡者数が約700人減少・平均寿命が約200日増加・それにより年間17億ユーロ（約2,000億円）規模の経済影響が見込まれている

Ajuntament de Barcelona
Urban Mobility Plan of Barcelona 2013-2018

SUPERBLOCKS MODEL



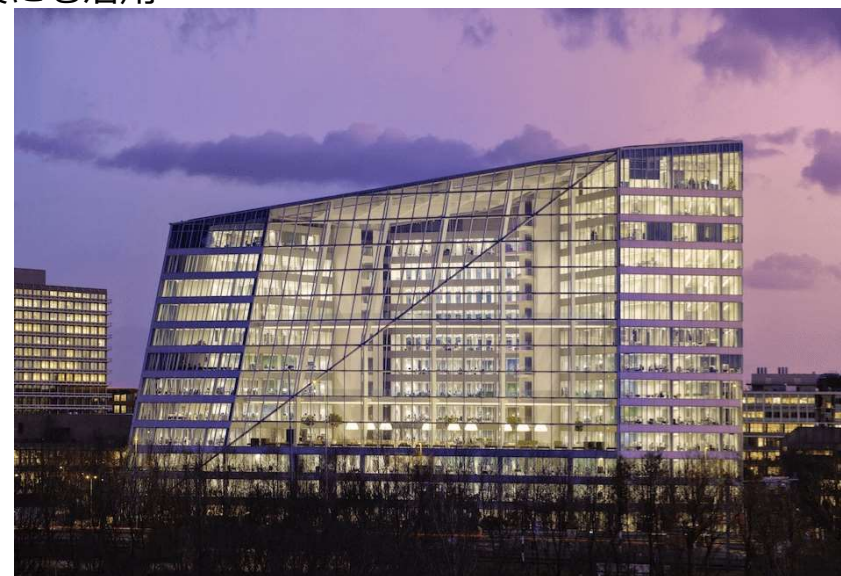
「スーパーブロック」計画 (c) Agència d'Ecologia Urbana de Barcelona

Source : IDEAS FOR GOOD（ウェブマガジン）、ForbesJAPAN（ニュースサイト）、生活総研（ニュースサイト）

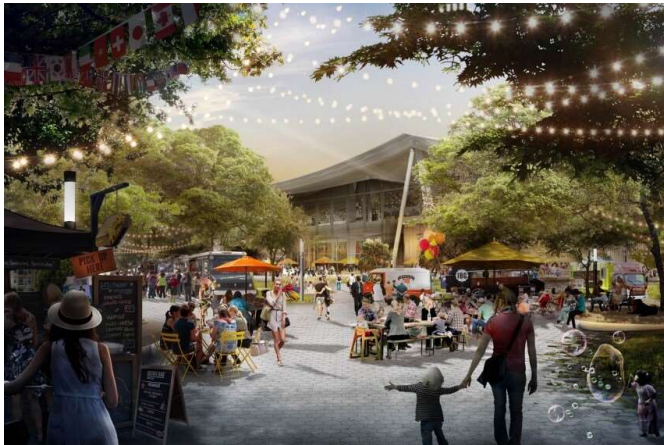
- 「アムステルダム・スマートシティ・プログラム（ASC）」：
主に省エネルギー、CO2排出の削減を目標として、同時にスマートグリッドとあらゆる最新技術を組み合わせ首都の持つ情報や資本、都市のインフラの効率的活用を可能にすることで、「市の経済成長」「住民・利用者の意識・行動の変化と住民の生活の質の向上」を目指す官民共同合同のプロジェクト
- 具体的には、エネルギー消費やCO2排出量の削減を中心に、生活、仕事、モビリティ、公共施設、オープンデータの5テーマについてスマートグリッド等の技術を活用した多数のプロジェクトを展開している。
- **生活エネルギーのスマート化**：一般家庭にスマートメータを設置し、エネルギー使用量が見える化。また住民を対象に、省エネセミナーやアイデア募集を行うなど、地区全体で電力消費を削減
- **住民向けサテライトオフィス**：交通渋滞に伴うCO2排出緩和を目指し、地域住民が使えるサテライトオフィスを住宅地区の近くに設置
- **スマートパーキング**：駐車場の空き情報をスマホで入手し、事前予約を可能としたシェア駐車システム
- **商業地区のスマート化**：施設内にスマートメータ及びディスプレイを設置し、エネルギー使用量が見える化。LED等高効率な照明も設置
- **データのマッピング化**：各地域のエネルギー使用量や都市インフラの状況など、さまざまな情報がオープンデータ地図上で公開。マップを通じて現状と課題が見える化され、政策立案にも活用

- スマートオフィス「The Edge」
- 環境性能は、ヨーロッパの環境指標BREEAMで98.4%の世界最高水準
- 再生可能エネルギーとして、帯水層を使った地下130mの蓄熱冷暖房システムを導入しており、夏場に蓄積した温かい水を冬場に利用している
- 70%のデスクに日光が入る。レストランでは地域で生産された新鮮な食材が調理され、照明や室温は前述のアプリを通じてワーカー一人ひとりが調整できる（ウェルビーイング）
- 建物内のあらゆるものがIoT化されており、利用者はスマホで座席の予約、室温・照明の調整が可能。管理者も機器メンテナンスのタイミング等を確認できる。（スマートテクノロジー）

Source : デジタルクロス、FUTURE STRIDE、DE-SIGN、WORKSIGHT（ニュースサイト）



- 現在建設中のGoogle本社の拡張計画
- 自然環境を尊重し、歩行者や自転車が行き交う空間がイメージとして示されている



各イメージの出典：ARCHITECTのオンライン記事より

- ライトレール「VTA」のMiddlefield駅周辺の再開発計画
- 職住近接のオフィスキャンパスを新設予定（約160,000㎡を再開発）
- オフィスビスのほか、店舗なども入る住居用ビルを建設予定
- 計48,000㎡の公園やオープンスペースによる広大な自然
- 炭素削減と節水に重点を置き、持続可能性の達成に向けて取組を推進（全建物に太陽光パネルや電気自動車の充電ステーションを設置等）
- 店舗等と組み合わせた様々なコミュニティスペースや屋外アメニティを計画。イベント、プログラム、アートを提供する包括的なコミュニティとなり、地域の住民、労働者、訪問者の間に有意義なつながりを創出・育成
- 自動車の走らない道による徒歩や自転車の安全なアクセスを実現



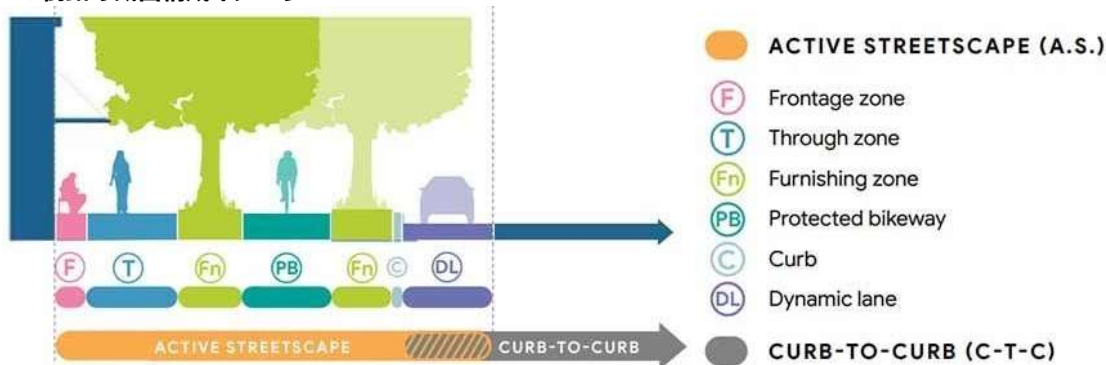
出典：Google Middlefield Park 公式HPより

- ・ 米カリフォルニア州サンノゼ市における人間中心、カーボンフリーを目指すスマートシティ開発
- ・ 徒歩・自転車・公共交通による移動の割合を計65%とし、車道とは分離した専用空間を確保
- ・ 道路車線には「ダイナミックレーン」を設け、時間帯やシチュエーションに応じて様々な用途として活用
- ・ 速度を抑制する装置や交通状態のモニタリングなどによる事故のないビジョンゼロの精神
- ・ 自動車以外の多様な移動の選択を支援するインセンティブ施策を用意（例：スマートフォンを活用した乗用車の相乗りサービス 等）

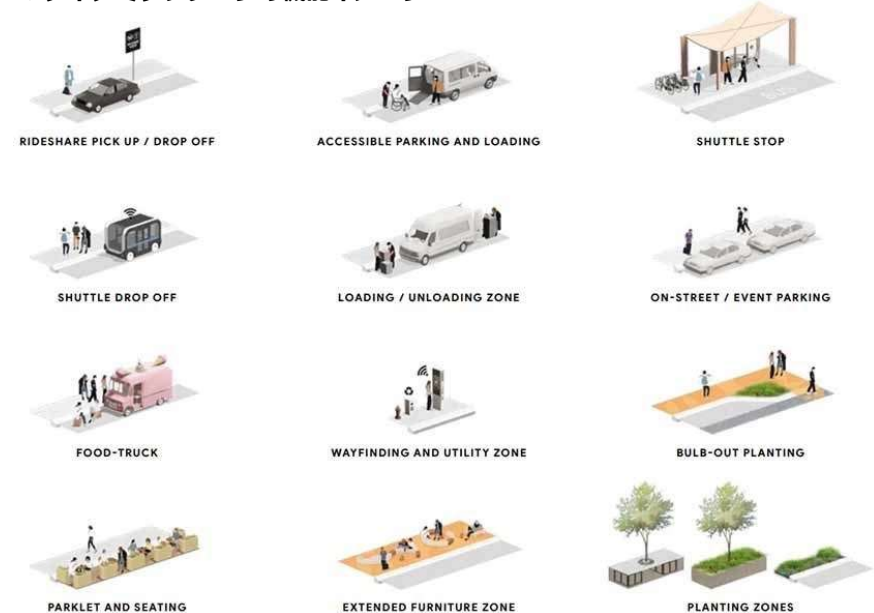
▼イメージCG



▼街路の断面構成イメージ



▼ダイナミックレーンの機能イメージ



- Appleの新社屋として建設
- 建物に囲われるように、敷地内の庭園を整備、社員にひらめきを与え、環境にプラスとなることを意図している
- 建物の屋上にはメガソーラーを設置し、電力は全て再生可能エネルギーを動力源としている
- 6kmを超えるウォーキングやジョギングのトレイルがあるほか、9,000本を超える樹木や、スポーツフィールド、テラス、池などがある
- 「スティーブ・ジョブズ・シアター」や、「ビジター・センター」なども併設



スティーブ・ジョブズ・シアター



ビジター・センター



各写真の出典：Foster + Partners 公式HPより

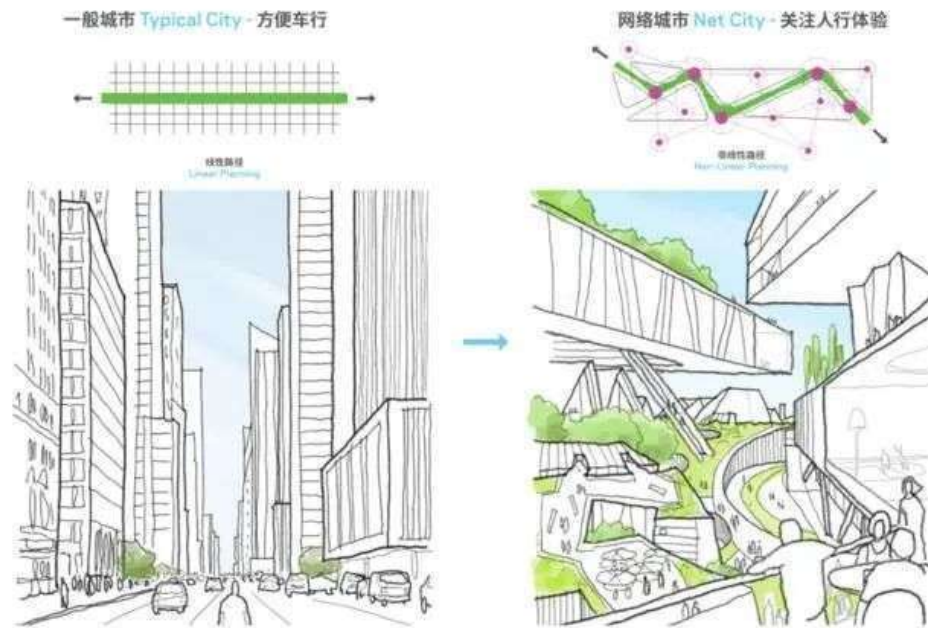
文章の出典：Foster + Partners 公式HP 及び 日経XTECHの記事より

- 分散型ネットワークに着想を得たコンセプト「ネット・シティ」を掲げ、人の暮らしをベースとした「互いにつながり合う大都会」という中国初のエコシステム構築を目指す
（設計者：NBBJ）



（スマート交通）

- スマート交通によって歩行者の通行ルートや、自転車・バスなどの走行ルートが分散
- 自動運転、路車協調システム、自動駐車システム、リバーシブルレーン（中央線変移）、優先通行権の振り分けなどにより敷地内交通の利便性、安全性を向上



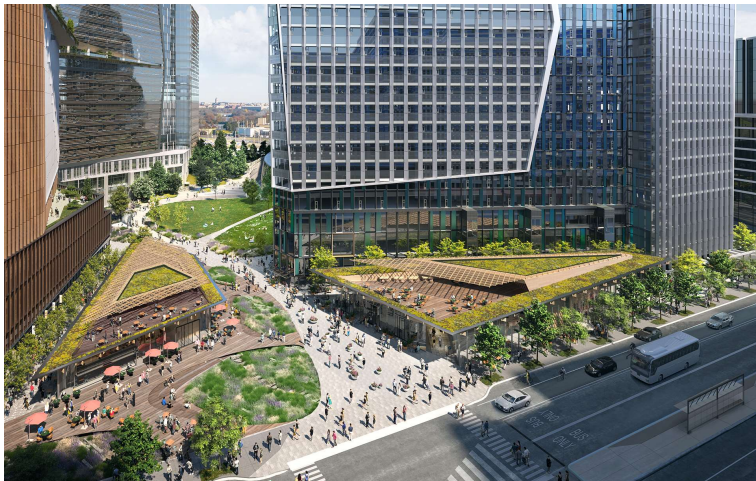
（サステイナブル）

- 建物の屋上にはソーラーパネルが設置され、センサーが環境モニタリングを実施
- 雨水収集するためのシステムを導入し、表面流出や氾濫が起きないように管理
- 各所に公園や林、湿地などの緑化空間を取り入れる計画



文章及びイメージの出典：36Krのオンラインニュースより

- 現在開発中のプロジェクトで、3棟のオフィスビルと、「The Helix」と呼ばれるらせん状のオフィスタワーを計画（設計者：NBBJ）
- 歩行者に焦点を当てた設計とし、合計2.5エーカーを超えるオープンスペースを計画し、地域の人々がくつろぐことが可能
- オープンスペースの円形劇場では、野外コンサート、ファーマーズマーケット、映画の上映が可能
- 自動車によるアクセスは地下で処理され、安全で快適な歩行者環境を促進
- 自転車については専用のレーンを設置



各イメージの出典：Amazon公式HPのニュース記事より

- まちづくり、モビリティ、防災等の各分野で先端技術を活用した事業を推進
- 各事業で得られたデータを収集するデータ連携基盤（都市OS）を構築し、オープンイノベーションを促進することで産業育成

市民の利便性向上につながる先端技術を生かしたサービスと、データ活用に向けた都市OSの構築でスマート・コンパクトシティを実現。

目標

- ・25歳～29歳のUIターン者数 100人増（2029年）
- ・子育て世代の転入者数 250人増（2029年）
- ・街なかへの居住人数 1,000人増（2029年）
- ・関係人口 500人増（2029年）

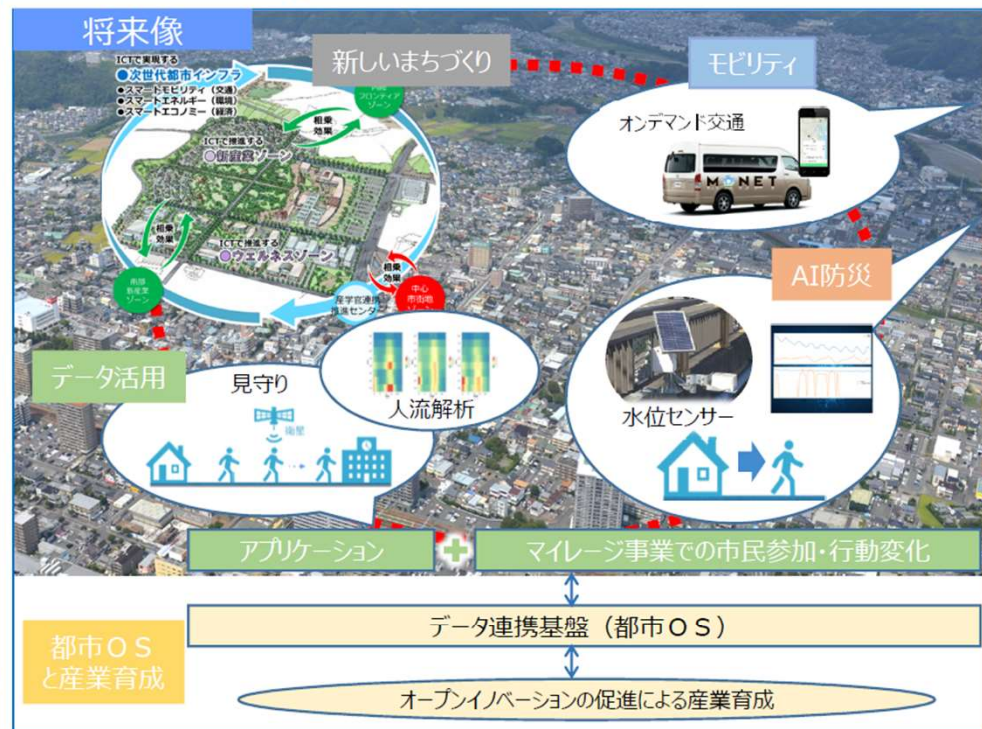
取組概要

AI 防災	中小河川を含めた水位監視と、AIによる危険予測で早期の避難を促すなど市民の安全を確保
モビリティ	AIを活用したオンデマンド交通で郊外・中山間地域と中心市街地・商業施設等を結ぶ
データ活用	市民向けのアプリ等から得られるデータ活用と、公共交通利用や、まちあるきでマイレージを付与することによる市民参加、行動変化で、藤枝市の4K（健康、教育、環境、危機管理）施策・まちづくりをデータエビデンスに基づいて推進
都市OSと産業育成	データ連携基盤としての都市OSの整備とこれを生かしたオープンイノベーションを推進し、企業立地を促進
新しいまちづくり	中心市街地と一体的にスマート・コンパクトな都市を実現する都市基盤整備を実施

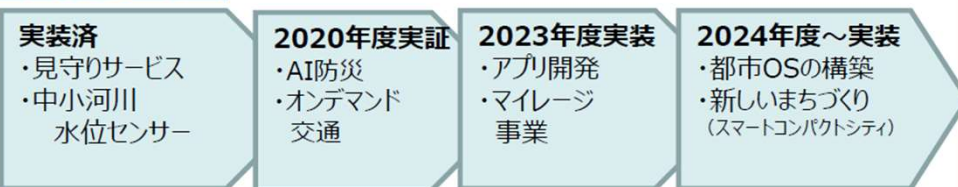
体制

取組	実施主体（市は全体に参画）
AI 防災	水位監視 (株)イトラスト AI予測 ソフトバンク(株)
モビリティ	MonetTechnologies(株)、公共交通事業者
データ活用	アプリ開発 藤枝ICTコンソーシアム マイレージ事業 藤枝市
都市OS・産業育成	藤枝ICTコンソーシアム、藤枝市
新しいまちづくり	藤枝市

将来像



スケジュール



出典：国土交通省 ふじえだスマートコンパクトシティ実行計画

■副市長を民間から公募 DXなど強化（※日本経済新聞2021年10月19日の記事より引用）

- 静岡県掛川市は2人目となる副市長を民間から公募する。高い専門性を持つ人材を採用し、市が課題と捉えるデジタル化や広報などの分野を強化する。民間人材の登用により、時代の変化に柔軟に対応できる行政の組織作りを目指す。

■人にやさしいデジタル化（※掛川市HP／2021年6月市議会定例会における市長の所信表明より引用）

- アフターコロナの新時代を見据える中で、デジタル化によって、利便性の向上や新しい価値を創造していくことが大切であり、あらゆる分野の基盤にデジタル化を意識し、取り組んでまいります。
- DX推進計画を策定し、ノウハウを有する民間人材にも携わってもらいながらデジタル化を進め、産業の活性化やまちの高度化につなげてまいります。
- また、スマートフォンで行政手続きがどこからでもできる「手のひら市役所」を目指した取組や、LINEやTwitterなどのSNSによる細かい情報発信にも注力してまいります。

■掛川市で取り組んでいる情報化政策（※掛川市HP／情報化政策より引用）

- 電子申請サービス、「かけがわチャ（茶）レンジ号」自動運転車両の実証実験、掛川市オープンデータ、公衆無線LAN設置、公式ツイッター、観光公式Instagram など

▼自動運転車両の実証実験



▼掛川市のオープンデータを二次利用し、避難所までの経路をスマートフォン上で案内するARアプリ「ナビワンコ」



目的地までの距離をチェック



犬が示す方向へ進みましょう。

各写真・画像の出典：掛川市HP